

I. 學生便覽

○学部・研究科の理念

薬学は医薬品の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学であり、諸基礎科学の統合を基盤とする学際融合学問領域と位置づけられる。本学部・研究科は諸学問領域の統合と演繹を通じて、創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康と社会の発展に貢献することを目標とする。

○教育理念

【理念】

薬学の学修を通じて、先端医療、医療薬学・臨床薬学の発展を担いうる人材を育成することによって、人類の健康と社会の発展に貢献することを理念とする。

【人材養成の目的】

生命倫理を基盤に、薬学の基礎となる自然科学の諸学問と薬学固有の学問に関する知識と技術および医療人として適正な態度を修得し、高度な先端医療を担う指導的薬剤師となる人材、医療薬学分野で活躍できる人材の育成を目指す。

○カリキュラム・ポリシー

- (1) 広範な教養と医療人に相応しい人間性、社会性、倫理観を育む教養教育を初等年次配当科目において実施し、主体的に学ぶ姿勢を涵養し、豊かな人格形成の基盤づくりを行います。
- (2) グローバルなコミュニケーション力養成のための外国語教育・少人数討論を初等年次配当科目において実施します。
- (3) 教養教育の上に、医療薬学研究者、薬剤師・医療従事者として必要な有機化学・天然物化学・物理化学・分析化学などの創薬化学、生物化学・衛生薬学などの生命薬科学、生理学・薬理学・薬剤学などの医療薬科学に関する講義・演習・実習を体系立てて実施します。
- (4) 習得した専門知識・技能・態度を基に、病院および薬局における長期実務実習および研究室において個別指導による特定のテーマに関する研究を行う特別実習を加え、医療薬学研究者、先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーとして必要な問題発見および問題解決の基礎的能力を修得することができるようにします。
科目間の体系的な流れをコースツリーにより示し、履修の一助とします。
また、学修成果の評価方法は、シラバスにおいて科目毎に明示します。

○ディプロマ・ポリシー

薬学部薬学科は、医療薬学を通して薬学の進展と社会の発展に貢献するリーダーを育成することが社会から期待されています。そうした人材を育成するために、本学科では、6年以上在学し、所定の単位を修得したうえで、以下の点に到達していることを目安とし学位を授与します。

- (1) 広範な教養と医療人として相応しい人間性、社会性、倫理観に基づいて主体的に行動ができる。
- (2) グローバルなコミュニケーション力を身につけ、将来、医療薬学研究者、薬剤師・医療従事者のリーダーとしての役割を果たす基盤を備えている。
- (3) 医療薬学研究者、薬剤師・医療従事者として必要な創薬化学、生命薬科学、医療薬科学に関する専門知識・技能・態度を習得し、世界水準の医療薬学研究、医療を実施する素地ができている。
- (4) 習得した専門知識・技能・態度を総合化し、医療薬学研究者、先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーとして必要な問題発見および問題解決の基礎的能力を修得している。

はじめに

薬学は、人体に働き生体機能の調節等を介して疾病の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創製、生産、管理、適正使用を目標とした総合科学です。一般に総合科学では基礎と応用、理論と技術は相互に補完的な関係にあり、薬学においては物理学、化学、生物学などを主たる基礎科学とし、その上にそれらを包括し総合的且つ融合的に展開する固有の学問が成立しています。薬学と医学は密接な関係にありますが、医学が直接人間を対象とするのに対して、薬学は薬という物質を対象として医療に貢献します。薬は人間の生命と健康の保全にかかわる物質ですから、薬を取り扱う薬学は社会的にも重要な意義をもつ総合科学です。薬学部では、こうした観点から、広い教養とともに専門分野の基礎科学を修得することを主眼として、薬の本質、疾病と薬物治療、医薬品創製の道筋、薬と社会の関わり方など、薬学部卒業生として必要不可欠な科学的知識・技能・態度を、調和のとれた体系的カリキュラムにより教育することを目指しています。

これまでに、京都大学薬学部では平成3年7月1日の大学設置基準改正に伴い、京都大学が大学の教育方針として掲げた四年一貫教育の理念のもとに新しいカリキュラムが作られ、さらに、平成9年4月には、それまでの薬学科、製薬化学科の2学科制が新たに総合薬学科の1学科制に改組されたことに伴い、授業科目区分、名称、単位数及び授業時間割など、カリキュラムが大幅に改正されました。さらに、平成18年4月からは、先端医療、医療薬学・臨床薬学研究を担う薬剤師の育成を主たる使命とする六年制の薬学科と創薬研究者と生命科学研究者の育成を主たる使命とする四年制の薬科学科に改組され、薬学科、薬科学科のそれぞれの教育目標の達成に向かってカリキュラムの一層の充実が図られ、薬学科においては、薬学モデルコアカリキュラムに沿って体系化された科目、実務実習、さらに特別実習が配当されています。（コースツリー参照）

京都大学では入学時から卒業時までの一貫教育（医学部医学科および薬学部薬学科においては六年、その他の場合には四年一貫教育）が標榜されており、その中で2年次までに配当されている科目は全学共通科目を含めて将来薬学に携わる者の基礎として極めて重要なものです。なお、これらの単位は、時間割の関係から3年次以降に取得することが困難であるので、1年次・2年次の所定の期間に修得することが特に強く望まれます。

3年次においては、全ての学生は、午前は講義、午後は実習を行います。薬学では講義を通じて科学的知識を修得すると共に、実習を通じてそれを身につけることが非常に重要視されており、それが薬学卒業生の活躍の原動力となっています。

4年次においては、全ての学生は、午前の講義に加えて午後は医療薬学ワークショップを行います。4年次後期からは、様々な分野に配属されて指導教授の指導に従って特別実習を行い、医療実務事前学習も行います。また、4年次修了直前に、5年次から始まる実務実習に備えて共用試験、すなわち知識を問うCBT（Computer Based Test）と技能・態度を問うOSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）を受験します。

5年次においては、引き続き特別実習を行います。医療実務事前学習の後半部分、さらに病院実務実習、薬局実務実習を行い、医療現場で知識・技能・態度をバランスよ

く学習します。

6年次においては、4、5年次に引き続き、配属された分野において、指導教授の指導に従い特別実習を行います。この特別実習は、それまでに学んだ講義による知識と実習で体得した技能・態度のすべてを活用して、特定のテーマについて新しい研究を行うものであり、これを通じてその専門分野の薬学の姿を体感するとともに、科学的問題発見能力や解決能力を養い、将来の活躍の基礎に資することを期待しています。後期には、全ての6年次生が一堂に会する特別実習発表会が開催されます。また、全ての学生は薬剤師国家試験対策を目的とした臨床薬学総論を履修します。

薬学科(六年制)の学生については、毎年前・後期授業終了後に定期試験があり、これらの試験に合格し所定の単位を修得し、さらに4年次に行われる共用試験(CBTとOSCE)に合格した者だけが、5年次の実務実習の機会を与えられます。

薬学科(六年制)の学生については、所定の単位を全て取得し、薬学の基礎知識と技能・態度を修得した者には、学士(薬学)の学位が授与され、卒業することになります。学士(薬学)の学位が授与された者には、薬剤師国家試験を受ける資格が与えられます。将来どの分野で活躍するにせよ、薬学科を卒業する学生には薬剤師の資格を取得することが望まれますが、そのためには在学中に定められた学習内容を誠実に勉強することが条件となります。学部卒業時に就職を希望する者に対する病院、薬局、会社などからの求人については、その情報を公開します。

学部を卒業後、さらに広い視野に立って専門的学識を深め、研究能力を養うことを希望する者は、4年間の大学院博士課程薬学専攻に進学することができます。大学院においては、薬学領域の理論や応用の研究を行うとともに、高度の専門性を有する研究者や薬剤師の養成が行われます。

大学院の入学試験に合格した者は、希望等に従って、各分野に配属されます。大学院博士課程の学生は、講義、演習、実験、実習とともに指導教授の研究指導のもとに、より高度な科学研究を行います。4年間の博士課程を修了し、研究論文の審査及び試験に合格した者には、「博士(薬学)」の学位が授与されます。

従来、薬学部、薬学研究科の出身者は主に大学、企業、国公立研究所、官庁、医療機関などに就職し、その専門並びに関連分野において教育者、研究者、技術者、薬剤師として活躍しています。

学生時代は知識を蓄え頭脳を鍛えるのに最も適した時期であり、人生の基礎固めの時期ですから、心身の健康に留意しつつ有意義に学生生活を過ごされることを期待しています。

薬学部・薬学研究科沿革

年 月 日	記 事
昭和 14. 3. 30	医学部に薬品分析化学講座、薬品製造学講座新設
3. 31	医学部に薬学科新設
15. 6. 25	有機薬化学講座新設
12. 10	無機薬化学講座新設
16. 4. 15	生薬学講座新設
12. 27	学位規程の一部改正により本学にて授与の学位中に薬学博士追加
12. 28	医学部薬学科第1回卒業式挙行
24. 5. 31	国立学校設置法により新制京都大学設置
26. 4. 1	薬剤学講座新設
27. 4. 1	生物薬品化学講座新設
28. 4. 1	京都大学大学院に薬学研究科（薬学専攻）設置
4. 7	大学院薬学研究科規程制定
29. 4. 1	医学部内に有機微量元素分析総合研究施設設置
35. 4. 1	薬学部（薬学科）設置
	医学部の薬品分析化学、薬品製造学、有機薬化学、無機薬化学、生薬学、薬剤学、生物薬品化学の各講座を廃止し、薬学部内に薬品分析学、薬品製造学、有機薬化学、無機薬化学、生薬学、薬剤学、生物薬品化学の各講座を新設
	医学博士教授山本俊平医学部長、薬学部長事務取扱に就任
	有機微量元素分析総合研究施設内規の一部改正により薬学部内に同施設附置
4. 12	薬学部規程制定
5. 1	薬学博士富田真雄教授初代薬学部長に就任
36. 4. 1	製薬化学科新設、薬用植物化学講座新設
37. 4. 1	薬品作用学講座、薬品工学講座新設
38. 4. 1	薬品物理化学講座、衛生化学講座新設
39. 4. 1	放射性薬品化学講座新設
40. 4. 1	薬学研究科製薬化学専攻新設
41. 4. 1	薬品作用学講座を薬理学講座に、生物薬品化学講座を生物化学講座に改める
48. 4. 12	薬学部附属薬用植物園設置
52. 2. 24	薬学博士井上博之教授初代薬学研究科長に就任
62. 5. 21	薬品工学講座を微生物薬品学講座に改める
平成 5. 4. 1	薬品作用制御システム専攻（独立専攻）新設
9. 4. 1	薬学部の薬学科、製薬化学科を総合薬学科に改組
	薬学研究科の薬学専攻、製薬化学専攻、薬品作用制御システム専攻を創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻に改組
10. 4. 9	附属薬用植物園を大学院薬学研究科附属に移行
11. 4. 1	生命科学研究科設置
14. 4. 1	薬品製剤設計学講座薬品分子構造学分野を同講座ゲノム創薬科学分野に改称
	薬品機能統御学講座に構造生物薬学分野を新設
14. 10. 31	薬学研究科総合研究棟竣工
15. 4. 1	寄付講座「創薬神経科学講座」を新設
	薬学研究科附属創薬・医療連携薬学コア部門新設
15. 8. 1	寄附講座「医薬品理論設計学」講座新設
15. 9. 4	21世紀 COE プログラム採択に伴い協力講座生命知識システム学分野設置 (設置期間：21世紀 COE プログラム実施期間)
16. 4. 1	国立大学法人京都大学設立
18. 4. 1	薬学部の総合薬学科を薬科学科、薬学科に改組
	薬学研究科附属統合薬学フロンティア教育センター新設
19. 4. 1	医薬創成情報科学専攻（独立専攻）新設
5. 1	寄附講座「ナノバイオ医薬創成科学講座」を新設
20. 10. 1	寄附講座「システム創薬科学講座」を新設
21. 4. 1	革新的ナノバイオ創薬研究拠点を新設
22. 4. 1	最先端創薬研究センター新設
22. 4. 1	創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻（修士課程）を薬科学専攻（修士課程）に改組
	統合薬学教育開発センター新設
24. 4. 1	創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻（博士後期課程）を薬科学専攻（博士後期課程）に改組
	薬学専攻（博士課程）新設
	寄附講座「医薬産業政策学講座」を新設
26. 5. 31	附属薬用植物園移設

目 次

はじめに	1
京都大学薬学部規程	6
平成29年度 薬学部学年暦	9
平成29年度 カレンダー	10
平成29年度 前期授業時間割表	11
平成29年度 後期授業時間割表	12

平成28年度以降入学者適用（薬学科）

京都大学薬学部学修要項（平成28年度以降入学者適用）	15
平成28年度以降入学者の卒業に必要な単位数	17
平成28年度以降入学者の全学共通科目の卒業必要単位数	18
平成28年度以降入学者の薬学部開講科目配当表	19

平成25～27年度入学者適用（薬学科）

京都大学薬学部学修要項（平成25～27年度入学者適用）	23
平成25～27年度入学者の卒業に必要な単位数	25
平成25～27年度入学者の全学共通科目の卒業必要単位数	26
平成25～27年度入学者の薬学部開講科目配当表	27

平成19～24年度入学者適用（薬学科）

京都大学薬学部学修要項（平成19～24年度入学者適用）	33
平成19～24年度入学者の卒業に必要な単位数	35
平成19～24年度入学者の全学共通科目の卒業必要単位数	36
平成19～24年度入学者の薬学部開講科目配当表	37

共通事項

コースツリー	43
科目内容	44
実習日程表	57
共用試験について	58
講義科目の授業・試験日程及び履修登録等手続事項	59

学生生活

連絡方法について／学生証について／学割証・各種証明書の交付について／ 修学上の願出・届出等について／経済生活について／健康管理について／ 学生が加入しなければならない保険について／通学について／物品の貸出しについて／ 学生用ロッカールームについて／遺失物・拾得物について／受験心得について／ 履修登録について／成績の確認・異議申立について／成績評価について／ GPA 制度導入について／履修取消制度の導入について／ 気象警報 発令時及び公共交通機関不通時等の薬学研究科・薬学部に係る授業・試験の 取扱について／建物管理について／薬学研究科サテライトの利用／自習室の利用／ 薬学研究科・薬学部図書室／薬学研究科廃棄物処理指針／ 安全管理について（薬学部防火心得）／就職について／薬剤師国家試験について／ 薬剤師（学士（薬学））に関係のある主な資格・業務一覧表	63
--	----

資料

分野の研究内容	85
薬学研究科関係教員	90
学部非常勤講師	92
歴代学部長・研究科長	94
薬学部教務関係委員	94
薬学部・薬学研究科教職員数及び学生数	95
薬学部卒業、薬学研究科修士課程修了者数及び学位授与者数	96
電話番号表	97
薬学部建物内配置図	99
京都大学構内図・薬学部建物配置図	103

京都大学薬学部規程

[昭和 35 年 4 月 12 日達示第 9 号制定]

第 1 学 科

第 1 条 本学部の学科は、次に掲げるとおりとする。

薬科学科

薬学科

第 2 入 学

第 2 条 入学者の選抜方法は、教授会で定める。

2 京都大学通則(昭和 28 年達示第 3 号。以下「通則」という。)第 4 条第 1 項ただし書の規定による入学に関する事項は、教授会で定める。

第 3 条 入学候補者の決定は、教授会で行う。

第 3 修 学

第 4 条 授業は、学部科目及び全学共通科目を必修科目及び選択科目に分けて行う。

第 5 条 学部科目の単位数、配当及び授業時間数は、教授会で定める。

第 6 条 全学共通科目の単位数、配当及び授業時間数は、別に定めるところによる。

第 7 条 通則第 19 条の規定により他学部の科目を履修しようとする者は、学年の初め又は学期の初めに学部長に願い出て、当該学部の学部長の許可を受けるものとする。

第 8 条 通則第 20 条第 1 項の規定により他の大学又は短期大学の科目を履修しようとする者には、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第 9 条 通則第 20 条第 2 項の規定により外国の大学又は短期大学に留学し、その科目を履修しようとする者には、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第 9 条の 2 通則第 20 条第 3 項の規定により外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修しようとする者には、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第 10 条 修学期間は、薬科学科にあつては 4 年、薬学科にあつては 6 年とする。

第 4 試 験

第 11 条 学部科目の試験の期日及び方法は、教授会で定める。

第 12 条 全学共通科目の試験については、別に定めるところによる。

第 5 学士の学位授与

第 13 条 薬科学科にあつては 4 年以上、薬学科にあつては 6 年以上在学し、学部の定めるところにより、薬科学科にあつては 146 単位以上、薬学科にあつては 200 単位以上を修得した者は、学士試験に合格した者とする。

2 次の各号に掲げる単位数は、教授会の議を経て、前項の単位数に算入することができる。

- (1) 第 7 条、第 8 条及び第 9 条の規定により他学部並びに他の大学又は短期大学及び外国の大学又は短期大学において履修し修得した単位数
- (2) 第 9 条の 2 の規定により外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位数
- (3) 通則第 21 条第 1 項の規定により短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修により履修し修得した単位数
- (4) 通則第 22 条第 1 項の規定により本学に入学する前に大学又は短期大学において履修し修得した単位数(大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)第 31 条に定める科目等履修生として修得し

た単位数を含む。)

(5) 通則第 22 条第 2 項の規定により本学に入学する前に行つた短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修により履修し修得した単位数

3 第 16 条の規定により本学他学部又は他大学から本学部に転学した場合における転学前に履修し修得した単位数は、教授会の議を経て、第 1 項の単位数に通算することがある。

4 第 2 項第 4 号の規定により科目等履修生として修得した単位数を第 1 項の単位数に算入するときは、通則第 22 条第 4 項の規定により、教授会の議を経て、一定の期間を第 10 条の修学期間に通算することがある。

第 14 条 学士試験に合格した者には、通則第 54 条に定める学士の学位を授与する。

第 6 在 学

第 15 条 在学は、薬科学科にあつては 8 年、薬学科にあつては 10 年を超えることができない。

第 7 転学及び転科

第 16 条 本学他学部学生若しくは他大学の学生で本学部に転学を志望する者又は本学部学生で転科若しくは他学部へ転学を志望する者があるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第 8 科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生

第 17 条 通則第 61 条第 1 項の規定により科目等履修生として入学を志望する者には、教授会の議を経て、入学を許可することがある。

第 18 条 特定の科目につき、聴講を志望する者があるときは、教授会の議を経て、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生の取扱いその他については、別に定める。

第 19 条 通則第 63 条第 1 項の規定により特別聴講学生として入学を志望する者には、教授会の議を経て、入学を許可することがある。

第 9 研 究 生

第 20 条 薬学に関する特定事項の研究を志望する者があるときは、研究生として入学を許可することがある。

第 21 条 研究生として入学することのできる者は、京都大学研究生規程(昭和 50 年達示第 37 号)第 2 条第 1 号に規定する者のほか、薬剤師の免許証を有する者又はその資格がある者とする。

第 22 条 研究生の在学期間は、1 年以内とする。

2 在学期間満了後更に研究を継続したい者には、その願い出により教授会の議を経て、そのつど 1 年以内を限り、在学期間の延長を許可することがある。

3 在学期間は、通算 7 年を超えることができない。

第 23 条 前 2 条に規定するもののほか、研究生の取扱いその他については、京都大学研究生規程による。

附 則

1 この規程は、昭和 35 年 4 月 12 日から施行し、昭和 35 年 4 月 1 日から適用する。

2 昭和 35 年 3 月 31 日現在医学部薬学科に在学する学生、聴講生又は研究生は、別段の定めをしない限り、昭和 35 年 4 月 1 日付で、薬学部薬学科の学生、聴講生又は研究生として転学させるものとする。

3 前項の規定により薬学部薬学科に転学されたものについては、医学部薬学科における在学年限は、薬学部薬学科における在学年限とみなし、医学部薬学科において履修した科目の単位は、薬学部薬学科において履修したものとみなす。

[中間の改正規程の附則は、省略した。]

附 則

1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 改正後の第13条第1項の規定は、この規程施行の日以後に入学した者から適用し、同日前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成25年12月26日から施行し、平成25年12月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第13条1項の規定は、この規程施行の日以後に入学した者から適用し、同日前に入学した者については、なお従前の例による。

平成29年度 薬学部学年暦

年 月 日	事 項
平成29年 4月 1日(土)	前期始まり
4月 6日(木)	ガイダンス (在学生)
4月 7日(金)	入学式 ガイダンス (新入生)
4月10日(月)～ 7月28日(金)	前期授業 ※(7月18日(火))は休講等による振替授業 実施可能日とする ※7月24日(月)～7月28日(金) 全学共通科目:試験期間(薬学部:授業期間)
4月 中旬	3回生以上 定期健康診断 (午後専門実習休止)
6月18日(日)	創立記念日 (授業休止)
7月31日(月)～ 8月 4日(金)	前期試験 (全学共通科目:フィードバック期間)
8月 6日(日)～ 9月30日(土)	夏季休業
9月30日(土)	前期終わり
10月 1日(日)	後期始まり
10月 2日(月)～ 1月30日(火)	後期授業 ※1月12日(金)は授業休止とする。 (1月4日(木))は休講等による振替授業 実施可能日とする (1月16日(火))は月曜日の授業を行う (1月17日(水))は金曜日の授業を行う (1月23日(火))は金曜日の授業を行う ※1月24日(水)～1月30日(火) 全学共通科目:試験期間(薬学部:授業期間)
11月23日(木)～ 11月26日(日)	11月祭 ※11月24日(金), 11月27日(月)は授業休止 とする。
12月29日(金)～ 平成30年 1月 3日(水)	冬季休業
1月31日(水)～ 2月 6日(火)	後期試験 (全学共通科目:フィードバック期間)
3月27日(火)	卒業式
3月31日(土)	後期終わり

平成29年度カレンダー

平成29年

4 April

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5 May

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6 June

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7 July

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8 August

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9 September

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10 October

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11 November

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12 December

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

平成30年

1 January

日	月	火	水	木	金	土
		①	②	③	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2 February

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3 March

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

平成29年度 前期授業時間割表

薬学科(6年制)

曜日	8:45~10:15			10:30~12:00			13:00~14:30			14:45~16:15			16:30~18:00			
	科目名・担当教員	教室	区分	科目名・担当教員	教室	区分	科目名・担当教員	教室	区分	科目名・担当教員	教室	区分	科目名・担当教員	教室	区分	
月	1	薬用植物学 伊藤准教授;注1	※ 講堂				薬の世界入門 薬学部教員	講堂	※ 講堂	情報基礎 中津准教授;平澤准教授;注1	講義室A	※ 講義室A	情報基礎演習 中津准教授;平澤准教授;注1	講義室A	※ 講義室A	
	2	物理化学1(量子化学) 加藤教授;注1	講義室A	分析化学1(薬品分析化学) 石濱教授	講義室A	必修				科学コミュニケーションの基礎と実践(英・英)A フスタ講師	講義室A	必修	科学コミュニケーションの基礎と実践(英・英)A フスタ講師	講義室A	必修	
	3	衛生薬学2(環境衛生学) 中山教授	指定	天然物薬学3(生薬学) 伊藤准教授;注2	講義室A	※ 講義室A								科学コミュニケーションの基礎と実践(英・英)A フスタ講師	講義室A	必修
	4			基礎バイオインフォマティクス 奥野講師(非);白川准教授	情報処理演習室	指定										
火	5	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習(5-9月)														
	6	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習														
	1															
	2	有機化学1 竹本教授	講義室A	必修	生理学2(分子生理学) 金子教授	講堂	必修	地域医療薬学1 金子教授;津田講師	講堂	指定						
	3	医薬品化学 大石准教授	指定	生理学4(病態ゲノム学) 岡村教授;土居准教授	講堂	指定										
	4	医療薬理学1 米澤准教授;松原;中川各講師(非)	必修	薬局方・薬事関連法規 樋口講師 他	講堂	必修										
水	5	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習(5-9月)														
	6	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習														
	1															
	2	天然物薬学1(天然物化学) 服部准教授;注1	※ 講義室A	必修	物理化学2(電気化学・界面化学) 松崎教授	講義室A	必修	基礎有機化学I 高須教授;必修	講堂	指定	先端医療SGD演習 山下教授;津田講師	講堂	指定	先端医療SGD演習 山下教授;津田講師	講義室A	指定
木	3	感染防御学1 小柳;生田;竹内;栗原;佐藤各講師(非)	必修	有機化学5 川瀬講師(非);古田講師(非)	講堂	選択										
	4			薬物治療学1 金子教授;白川准教授	講堂	指定										
	5	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習(5-9月)														
	6	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習														
金	1															
	2	生物化学1(物質生化学) 柿澤准教授	必修	生物化学2(代謝生化学) 中山教授;申准教授	講義室A	必修										
	3	生物化学4(応用生物分子科学) 二木講師(非);今西講師(非)	指定	分析化学4(臨床化学) 小野准教授	講義室A	指定										
	4															
土	5	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習(5-9月)														
	6	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習														
	1															
	2															
	3	薬理学2(循環器薬理) 白川准教授	必修	薬理学2(固形製剤論) 西川講師;高橋助教	講義室A	必修										
	4															
日	5	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習(5-9月)														
	6	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習														
	1															
	2															
	3															
	4															

集中講義: 医薬品開発プロジェクト演習 I (配当3回生前期)、医薬品開発プロジェクト演習 II (配当4回生前期)、統合型薬学演習 (配当1回生前期・3回生後期)、医療倫理実習 (配当1回生前期・4回生後期)
 ※注1: 平成24年度以前入学者は選択必修、平成25~27年度入学者は必修、平成28年度以降入学者は選択必修。
 ※注2: 平成22年度以前入学者は選択、平成23年度以降入学者は指定。

平成28年度以降入学者適用

薬 学 科

京 都 大 学 薬 学 部 学 修 要 項

(平成28年度以降入学者適用：薬科学科・薬学科)

(平成27年12月10日教授会承認)

- I 卒業に要する授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。
- イ 全学共通科目の必修科目、選択必修科目及び選択科目の各授業科目並びに単位数は、別表第2のとおりとする。
- ロ 学部科目及び本学部で開講する全学共通科目の必修科目及び選択科目等の別、単位数、時間数並びに配当年次は、別表第3のとおりとする。
- II 全学共通科目の履修及び受験は、別に定めるところによる。
- III 学部科目の履修及び受験は、次の規定によるものとする。
- イ 学部科目は、別表第3に定める授業科目配当年次別配当順にしたがって履修するものとする。ただし、実習科目は、実習日程表にしたがって履修するものとする。
- ロ 履修については、前期及び後期のそれぞれの指定期日に履修登録をしなければならない。
- ハ 同一時間に行われる授業科目の履修登録は、全学共通科目、学部科目を問わず原則として認められない。
- ニ 履修登録のない授業科目の履修及び受験は、原則として認めない。
- ホ 実習期間中にやむを得ず他の授業科目を履修（受験）しようとする者は、当該実習担当教員の許可を得なければならない。
- ヘ 試験に欠席した者は、速やかに薬学部長あてに理由を付して欠席届を提出しなければならない。この場合、正当な理由がある場合、追試験を許可することがある。なお、欠席届は、あらかじめ当該授業担当者の承認を得てから提出するものとする。
- ト 所定の試験又は追試験に合格しない者が合否発表後1ヶ月以内に受験を申し出た場合は1回に限り再試験を許可することがある。
- チ 学部科目の成績評価は100点満点で行い、60点以上を合格とする。ただし、科目によっては単に合格、不合格とする場合がある。また、再試験での合格点はすべて60点とする。
- リ 受験（学部科目及び全学共通科目）に際して不正行為があった場合、当該年度的全履修授業科目を無効にする等の措置を行う。
- IV 薬学専門実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位（64単位）のうち、56単位以上並びに「学部科目」において、薬科学科は必修科目28単位以上を修得した者、薬学科は必修科目26単位以上を修得した者は、薬学専門実習を受けることができる。
- ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て薬学専門実習を許可することがある。

- V 特別実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位並びに「学部科目」において、薬科学科は必修科目34単位以上、選択科目18単位以上、薬学専門実習16単位を修得した者、薬学科は必修科目38単位以上、指定科目16単位以上、薬学専門実習16単位を修得した者は、特別実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て特別実習を許可することができる。
- VI 特別実習のための分野への配属は、次の規定によるものとする。
- イ 特別実習を受けようとする者は、所定の履修願を提出するものとする。
 - ロ 各分野への配属可能な学生数は、年度毎に教授会において定める。
 - ハ 特別実習のための分野への配属は、配属の前年度までにV項の資格を取得した者について、教授会において定める。特別実習は、薬科学科は4月から実施し、薬学科は10月から実施する。
 - ニ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て分野への配属を定めることがある。
- VII 医療実務事前学習の受講資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位並びに、「学部科目」において、薬学科の必修科目42単位以上、指定科目20単位以上、薬学専門実習16単位を修得し、かつ特別実習の分野配属をしている者は、医療実務事前学習を受講することができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て医療実務事前学習の受講を許可することができる。
- VIII 病院実務実習、薬局実務実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 医療実務事前学習2単位を修得し、共用試験に合格した者は、病院実務実習、薬局実務実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て病院実務実習、薬局実務実習を許可することができる。

附 則

- 1 この学修要項は、平成28年4月1日から実施する。

平成28年度以降入学者の
卒業に必要な単位数

区分		取得すべき単位数(卒業必要単位数)		計
全学 共通 科目	人文・社会科学科目	選択科目	10単位以上	10単位以上
	自然科学科目 健康・スポーツ科目 情報学科目	必修科目	10単位	32単位以上
		選択必修科目	選択必修科目 12単位以上を 含む22単位以 上	
		選択科目(必修科目及び選択必修科 目以外の科目)		
	キャリア形成科目	必修科目	4単位	4単位
	キャリア形成科目 (必修科目を除く)			
	統合科学科目	選択科目 ※1	2単位以上	2単位以上
	少人数科目			
	外国語科目	英語	8単位	16単位以上
		必修科目	(8単位)	
第2外国語(英語以外の1外国語)		8単位以上		
	選択科目	(8単位以上)		
計			64単位以上 (必修科目以外のE科目4単位を含む)	
学部 科目	講義	必修科目	48単位	90単位以上
		指定科目	30単位以上	
		選択科目	12単位以上	
	実習	実習科目	16単位	46単位以上
		実務実習	20単位	
		特別実習	10単位	
	計			136単位以上
合計			200単位以上	

全学共通科目の履修登録単位数の上限は、1開講期につき34単位とする。ただし、集中講義は履修登録単位の上限には含まれない。なお、通年科目については、総単位数の2分の1が1開講期あたりの単位数としてカウントされる。

注) 全学共通科目及び学部科目の必修科目、選択必修科目、指定科目及び選択科目等の各授業科目については、それぞれ別に定める。

※1 単位互換等科目を除く

【科目区分の定義】

- ・必修科目：卒業するために単位取得が絶対に必要な科目。
- ・指定科目：卒業に必要な単位数を取得する際、必修科目ほど必須ではないが、薬学科において履修が強く推奨される学部専門科目。
- ・選択必修科目：卒業に必要な単位数を取得する際、必修科目ほど必須ではないが、薬学部において履修が強く推奨される全学共通科目。
- ・選択科目：卒業に必要な単位数を取得する際、選択することが可能な科目。

平成28年度以降入学者の
全学共通科目の卒業必要単位数

群	授業科目、必修・選択必修科目の別、単位数その他				
人文・社会科学科目	10単位以上				
健康・スポーツ科目(自) 健康・スポーツ科目(健) 情報学科目(情)	32単位以上				
	区分	群	科目名	単位数	備考
	必修科目	自	基礎物理化学(熱力学)	2	薬学部開講科目を履修すること
		自	基礎有機化学Ⅰ	2	
		自	基礎有機化学Ⅱ	2	
		健	「薬の世界」入門	2	
		健	健康・生命科学入門	2	
	選択必修科目	自	微分積分学(講義・演義)A	3	
		自	微分積分学(講義・演義)B	3	
		自	線形代数学(講義・演義)A	3	
		自	線形代数学(講義・演義)B	3	
		自	物理学基礎論A	2	
		自	物理学基礎論B	2	
		自	熱力学	2	
		自	物理学実験	2	
		自	基礎化学実験	2	
		自	生物学実習Ⅲ	2	
		自	統計入門	2	
		健	薬用植物学	2	
		情	情報基礎	2	薬学部開講科目を履修すること
情		情報基礎演習	2		
選択科目		上記以外の科目			
キャリア形成科目	必修科目 (E3科目)	科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A	2		
		科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)B	2		
キャリア形成科目(必修科目を除く) 統合科学科目 少人数教育科目			2単位以上(単位互換科目を除く)		
外国語科目	英語		16単位以上		
	区分	科目名	単位数	備考	
	必修科目	英語(リーディング)	4		
		英語(ライティング-リスニング)A	2		
		英語(ライティング-リスニング)B	2		
第2外国語	英語以外の1外国語	8単位以上			
[ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語、アラビア語、日本語(留学生のみ)]					
必修科目以外のE科目			4		

平成28年度以降入学者の薬学部開講科目配当表

区分	授業科目名	ナンバリングコード	単位	必修科目 指定科目 選択科目 の別 (現行)	配 当 年 次														
					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次				
					前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
全学 共通 科目	自然科学 科目群	基礎物理化学(熱力学)	UPHA002A011LJ86	2	必修		2												
		基礎有機化学Ⅰ	UPHA002A012LJ86	2	必修	2													
		基礎有機化学Ⅱ	UPHA002A013LJ86	2	必修		2												
	健康・ スポ ーツ 科目 群	「薬の世界」入門	UPHA002A014LJ86	2	必修	2													
		健康・生命科学入門	UPHA002A015LJ86	2	必修	2													
		薬用植物学	UPHA002A016LJ86	2	選必	2													
	情報学 科目群	情報基礎	UPHA002A017LJ86	2	選必	2													
		情報基礎演習	UPHA002A018LJ86	2	選必	2													
	キャリ ア形 成科 目群	科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A *1	UPHA002A019LJ86	2	必修			2											
		科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)B *1	UPHA002A020LJ86	2	必修				2										
学部 専門 科目	化学系	有機化学1	UPHA002A021LJ86	2	必修			2											
		有機化学2	UPHA002A022LJ86	2	必修				2										
		医薬品化学	UPHA003A016LJ86	2	指定					2									
		有機化学4	UPHA003A014LJ86	2	指定						2								
		有機化学5	UPHA003A015LJ86	2	選択							2							
		天然物薬学1(天然物化学)	UPHA002A006LJ86	2	指定			2											
		天然物薬学2(薬用資源学)	UPHA002A007LJ86	2	指定				2										
		天然物薬学3(生薬学)	UPHA003A008LJ86	2	指定					2									
		創薬有機化学エクササイズ1	UPHA002A017SJ86	2	選択						2								
		創薬有機化学エクササイズ2	UPHA003A018SJ86	2	選択								2						
	物理系	物理化学1(量子化学)	UPHA002A101LJ86	2	必修			2											
		物理化学2(電気化学・界面化学)	UPHA002A102LJ86	2	必修			2											
		物理化学3(構造化学)	UPHA002A103LJ86	2	選択				2										
		物理化学4(生物物理化学)	UPHA003A104LJ86	2	選択						2								
		分析化学1(薬品分析化学)	UPHA002A106LJ86	2	必修			2											
		分析化学2(放射化学)	UPHA002A107LJ86	2	必修				2										
		分析化学3(分光学)	UPHA002A108LJ86	2	選択					2									
		分析化学4(臨床化学)	UPHA003A109LJ86	2	指定							2							
		創薬物理化学エクササイズ1	UPHA002A110LJ86	2	選択				2										
	創薬物理化学エクササイズ2	UPHA002A111LJ86	2	選択						2									
生物系	生物化学1(物質生化学)	UPHA002A201LJ86	2	必修			2												
	生物化学2(代謝生化学)	UPHA002A202LJ86	2	必修			2												
	生物化学3(分子生物学)	UPHA002A214LJ86	2	必修				2											
	生物化学4(応用生物分子科学)	UPHA003A215LJ86	2	指定					2										
	生物化学5(細胞生物学)	UPHA003A205LJ86	2	選択						2									
	生物化学6(生理化学)	UPHA003A206LJ86	2	選択							2								
	感染防御学1	UPHA003A216LJ86	2	必修					2										
	感染防御学2	UPHA003A217LJ86	2	指定							2								
	衛生薬学1(健康化学)	UPHA002A212LJ86	2	必修				2											
	衛生薬学2(環境衛生学)	UPHA003A213LJ86	2	指定								2							

平成25～27年度入学者適用

薬 学 科

京都大学薬学部学修要項

(平成25～27年度入学者適用：薬科学科・薬学科)

(平成24年12月6日教授会承認)

- I 卒業に要する授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。
- イ 全学共通科目の必修科目、選択必修科目及び選択科目の各授業科目並びに単位数は、別表第2のとおりとする。
 - ロ 学部科目及び本学部で開講する全学共通科目の必修科目及び選択科目等の別、単位数、時間数並びに配当年次は、別表第3のとおりとする。
- II 全学共通科目の履修及び受験は、別に定めるところによる。
- III 学部科目の履修及び受験は、次の規定によるものとする。
- イ 学部科目は、別表第3に定める授業科目配当年次別配当順にしたがって履修するものとする。ただし、実習科目は、実習日程表にしたがって履修するものとする。
 - ロ 履修については、前期及び後期のそれぞれの指定期日に履修登録をしなければならない。
 - ハ 同一時間に行われる授業科目の履修登録は、全学共通科目、学部科目を問わず原則として認められない。
 - ニ 履修登録のない授業科目の履修及び受験は、原則として認めない。
 - ホ 実習期間中にやむを得ず他の授業科目を履修（受験）しようとする者は、当該実習担当教員の許可を得なければならない。
 - ヘ 試験に欠席した者は、速やかに薬学部長あてに理由を付して欠席届を提出しなければならない。この場合、正当な理由がある場合、追試験を許可することがある。なお、欠席届は、あらかじめ当該授業担当者の承認を得てから提出するものとする。
 - ト 所定の試験又は追試験に合格しない者が合否発表後1ヶ月以内に受験を申し出た場合は1回に限り再試験を許可することがある。
 - チ 学部科目の成績評価は100点満点で行い、60点以上を合格とする。ただし、科目によっては単に合格、不合格とする場合がある。また、再試験での合格点はすべて60点とする。
 - リ 受験（学部科目及び全学共通科目）に際して不正行為があった場合、当該年度の全履修授業科目を無効にする等の措置を行う。
- IV 薬学専門実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位（54単位）のうち、46単位以上並びに「学部科目」において、薬科学科は必修科目28単位以上を修得した者、薬学科は必修科目26単位以上を修得した者は、薬学専門実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て薬学専門実習を許可することがある。

- V 特別実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位並びに「学部科目」において、薬科学科は必修科目36単位以上、選択科目16単位以上、薬学専門実習16単位を修得した者、薬学科は必修科目38単位以上、指定科目16単位以上、薬学専門実習16単位を修得した者は、特別実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て特別実習を許可することができる。
- VI 特別実習のための分野への配属は、次の規定によるものとする。
- イ 特別実習を受けようとする者は、所定の履修願を提出するものとする。
 - ロ 各分野への配属可能な学生数は、年度毎に教授会において定める。
 - ハ 特別実習のための分野への配属は、配属の前年度までにV項の資格を取得した者について、教授会において定める。特別実習は、薬科学科は4月から実施し、薬学科は10月から実施する。
 - ニ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て分野への配属を定めることがある。
- VII 医療実務事前学習の受講資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位並びに、「学部科目」において、薬学科の必修科目42単位以上、指定科目20単位以上、薬学専門実習16単位を修得し、かつ特別実習の分野配属をしている者は、医療実務事前学習を受講することができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て医療実務事前学習の受講を許可することができる。
- VIII 病院実務実習、薬局実務実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 医療実務事前学習2単位を修得し、共用試験に合格した者は、病院実務実習、薬局実務実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て病院実務実習、薬局実務実習を許可することができる。

附 則

- 1 この学修要項は、平成25年4月1日から実施する。

平成25～27年度入学者の
卒業に必要な単位数

区分		取得すべき単位数(卒業必要単位数)		計
全学 共通 科目	人文・社会科学系科目群	選択科目	10単位以上	10単位以上
	自然・応用科学系科目群	必修科目	6単位	16単位以上
		選択必修科目 ※1	6単位以上	
		選択科目(必修科目及び選択必修科目以外の科目)	4単位以上	
	現代社会適応科目群	必修科目	10単位	14単位以上
		選択科目(必修科目以外の科目)	4単位以上	
	外国語科目群	英語 必修科目	8単位以上 (2単位)	12単位以上
		選択科目	(6単位以上)	
		第2外国語(英語以外の1外国語) 選択科目	4単位以上 (4単位以上)	
	拡大科目群	選択科目 ※2	2単位以上	2単位以上
計		54単位以上		
学部 科目	講義	必修科目	48単位	90単位以上
		指定科目	30単位以上	
		選択科目	12単位以上	
	実習	実習科目	16単位	46単位以上
		実務実習	20単位	
		特別実習	10単位	
計		136単位以上		
合計		190単位以上		

全学共通科目の履修登録単位数の上限は、1開講期につき30単位とする。ただし、集中講義は履修登録単位の上限には含まれない。なお、通年科目については、総単位数の2分の1が1開講期あたりの単位数としてカウントされる。

- 注) 全学共通科目及び学部科目の必修科目、選択必修科目、指定科目及び選択科目等の各授業科目については、それぞれ別に定める。
- ※1 全学共通科目自然・応用科学系科目群の選択必修科目の卒業必要単位数6単位を超えて取得したときの単位数は、同群選択科目の卒業必要単位数に算入する。
- ※2 単位互換等科目を除く

【科目区分の定義】

- ・必修科目 : 卒業するために単位取得が絶対に必要な科目。
- ・指定科目 : 卒業に必要な単位数を取得する際、必修科目ほど必須ではないが、薬学科において履修が強く推奨される学部専門科目。
- ・選択必修科目 : 卒業に必要な単位数を取得する際、必修科目ほど必須ではないが、薬学部において履修が強く推奨される全学共通科目。
- ・選択科目 : 卒業に必要な単位数を取得する際、選択することが可能な科目。

平成25～27年度入学者の
全学共通科目の卒業必要単位数

群	授業科目、必修・選択必修科目の別、単位数その他			
人文・社会科学系科目群	10単位以上			
自然・応用科学系科目群	16単位以上			
	区分	科目名	単位数	備考
	必修科目	基礎物理化学(熱力学) *1	2	薬学部開講科目
		基礎有機化学Ⅰ *2	2	同上
		基礎有機化学Ⅱ *3	2	同上
	選択必修科目	数学基礎ⅠA *4	2	ⅠA、ⅡAを併せて履修することが望ましい。
		数学基礎ⅡA *4	2	
		数学基礎ⅠB *4	2	ⅠB、ⅡBを併せて履修することが望ましい。
		数学基礎ⅡB *4	2	
		線形代数学A *4	2	
		線形代数学B *4	2	
		物理学基礎論A	2	
		物理学基礎論B	2	
		熱力学	2	
		物理学実験	2	
	基礎化学実験	2		
生物学実習Ⅲ	2			
選択科目	上記以外の科目			
現代社会適応科目群	14単位以上			
	区分	科目名	単位数	備考
	必修科目	「薬の世界」入門 *5	2	薬学部開講科目
		健康・生命科学入門 *6	2	同上
		薬用植物学	2	同上
		情報基礎	2	同上
		情報基礎演習 *7	2	同上
選択科目	上記以外の科目			
外国語科目群	12単位以上			
	英語 8単位以上			
	区分	科目名	単位数	備考
	必修科目	科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A *8	1	
		科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)B *9	1	
	選択科目	上記以外の英語科目		
第2外国語 英語以外の1外国語 4単位以上 [ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語、アラビア語、日本語(留学生のみ)]				
拡大科目群	2単位以上 (単位互換科目を除く)			

- *1は旧科目名「薬学物理化学(化学熱力学)」
- *2は旧科目名「基礎有機化学A」
- *3は旧科目名「基礎有機化学B」
- *4は平成28年度のみ開講、平成29年度以降は不開講
- *5は旧科目名「薬学倫理・概論」
- *6は旧科目名「薬学生物学」
- *7は旧科目名「情報基礎実践」
- *8は旧科目名「科学英語A」
- *9は旧科目名「科学英語B」

平成25～27年度入学者の薬学部開講科目配当表

区分	授業科目名	ナンバリングコード	単位	必修科目 指定科目 選択科目 の別 (現行)	配 当 年 次																			
					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次									
					前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後								
全学 共通科目	自然・ 応用科 学系科 目群	基礎物理化学(熱力学) *1		2	必修		2																	
		基礎有機化学Ⅰ *1		2	必修	2																		
		基礎有機化学Ⅱ *1		2	必修		2																	
	現代社 会適応 科目群	「薬の世界」入門 *1		2	必修	2																		
		健康・生命科学入門 *1		2	必修	2																		
		薬用植物学		2	必修	2																		
		情報基礎 情報基礎演習 *1		2	必修	2																		
	外国語 科目群	科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A *1		1	必修			2																
		科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)B *1		1	必修				2															
学部 専門科目	化学系	有機化学1	UPHA002A011LJ86	2	必修			2																
		有機化学2	UPHA002A012LJ86	2	必修				2															
		医薬品化学 *1	UPHA003A016LJ86	2	指定					2														
		有機化学4	UPHA003A014LJ86	2	指定						2													
		有機化学5	UPHA003A015LJ86	2	選択						2													
		天然物薬学1(天然物化学)	UPHA002A006LJ86	2	指定			2																
		天然物薬学2(薬用資源学)	UPHA002A007LJ86	2	指定				2															
		天然物薬学3(生薬学)	UPHA003A008LJ86	2	指定					2														
		創薬有機化学エクササイズ1 *1	UPHA002A017SJ86	2	選択					2														
	創薬有機化学エクササイズ2 *1	UPHA003A018SJ86	2	選択							2													
	物理系	物理化学1(量子化学)	UPHA002A101LJ86	2	必修			2																
		物理化学2(電気化学・界面化学)	UPHA002A102LJ86	2	必修			2																
		物理化学3(構造化学)	UPHA002A103LJ86	2	選択				2															
		物理化学4(生物物理化学)	UPHA003A104LJ86	2	選択						2													
		分析化学1(薬品分析化学)	UPHA002A106LJ86	2	必修			2																
		分析化学2(放射化学)	UPHA002A107LJ86	2	必修				2															
		分析化学3(分光化学)	UPHA002A108LJ86	2	選択					2														
		分析化学4(臨床化学)	UPHA003A109LJ86	2	指定							2												
		創薬物理化学エクササイズ1	UPHA002A110LJ86	2	選択				2															
創薬物理化学エクササイズ2	UPHA002A111LJ86	2	選択					2																
生物系	生物化学1(物質生化学)	UPHA002A201LJ86	2	必修			2																	
	生物化学2(代謝生化学)	UPHA002A202LJ86	2	必修			2																	
	生物化学3(分子生物学)	UPHA002A214LJ86	2	必修				2																
	生物化学4(応用生物分子科学)	UPHA003A215LJ86	2	指定					2															
	生物化学5(細胞生物学)	UPHA003A205LJ86	2	選択						2														
	生物化学6(生理化学)	UPHA003A206LJ86	2	選択							2													
	感染防御学1 *1	UPHA003A216LJ86	2	必修						2														
	感染防御学2 *1	UPHA003A217LJ86	2	指定								2												
	衛生薬学1(健康化学)	UPHA002A212LJ86	2	必修				2																
衛生薬学2(環境衛生学)	UPHA003A213LJ86	2	指定							2														

新科目名	旧科目名	変更年度
基礎物理化学(熱力学)	薬学物理化学(化学熱力学)	H27
基礎有機化学Ⅰ	基礎有機化学A	H27
基礎有機化学Ⅱ	基礎有機化学B	H27
「薬の世界」入門	薬学倫理・概論	H28
健康・生命科学入門	薬学生物学	H28
情報基礎演習	情報基礎実践	H28
医薬品化学	有機化学3	H28
創薬有機化学エクササイズ1	創薬有機化学エクササイズ	H28
創薬有機化学エクササイズ2	医薬品化学・新薬論	H28
感染防御学1	微生物学1(細菌学)	H28
感染防御学2	微生物学2(ウイルス学)	H28
科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A	科学英語A	H29
科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)B	科学英語B	H29

平成19～24年度入学者適用

薬 学 科

京都大学薬学部学修要項

(平成19～24年度入学者適用：薬科学科・薬学科)

(平成17年10月27日教授会承認)

- I 卒業に要する授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。
- イ 全学共通科目の必修科目、選択必修科目及び選択科目の各授業科目並びに単位数は、別表第2のとおりとする。
 - ロ 学部科目及び本学部で開講する全学共通科目の必修科目及び選択科目等の別、単位数、時間数並びに配当年次は、別表第3のとおりとする。
- II 全学共通科目の履修及び受験は、別に定めるところによる。
- III 学部科目の履修及び受験は、次の規定によるものとする。
- イ 学部科目は、別表第3に定める授業科目配当年次別配当順にしたがって履修するものとする。ただし、実習科目は、実習日程表にしたがって履修するものとする。
 - ロ 履修については、前期及び後期のそれぞれの指定期日に履修登録をしなければならない。
 - ハ 同一時間に行われる授業科目の履修登録は、全学共通科目、学部科目を問わず原則として認められない。
 - ニ 履修登録のない授業科目の履修及び受験は、原則として認めない。
 - ホ 実習期間中にやむを得ず他の授業科目を履修（受験）しようとする者は、当該実習担当教員の許可を得なければならない。
 - ヘ 試験に欠席した者は、速やかに薬学部長あてに理由を付して欠席届を提出しなければならない。この場合、正当な理由がある場合、追試験を許可することがある。なお、欠席届は、あらかじめ当該授業担当者の承認を得てから提出するものとする。
 - ト 所定の試験又は追試験に合格しない者が合否発表後1ヶ月以内に受験を申し出た場合は1回に限り再試験を許可することがある。
 - チ 学部科目の成績評価は100点満点で行い、60点以上を合格とする。ただし、科目によっては単に合格、不合格とする場合がある。また、再試験での合格点はすべて60点とする。
 - リ 受験（学部科目及び全学共通科目）に際して不正行為があった場合、当該年度的全履修授業科目を無効にする等の措置を行う。
- IV 薬学専門実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位（58単位）のうち、50単位以上並びに「学部科目」において、薬科学科は必修科目28単位以上を修得した者、薬学科は必修科目26単位以上を修得した者は、薬学専門実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て薬学専門実習を許可することがある。

- V 特別実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位並びに「学部科目」において、薬科学科は必修科目36単位以上、選択科目16単位以上、薬学専門実習16単位を修得した者、薬学科は必修科目38単位以上、指定科目16単位以上、薬学専門実習16単位を修得した者は、特別実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て特別実習を許可することができる。
- VI 特別実習のための分野への配属は、次の規定によるものとする。
- イ 特別実習を受けようとする者は、所定の履修願を提出するものとする。
 - ロ 各分野への配属可能な学生数は、年度毎に教授会において定める。
 - ハ 特別実習のための分野への配属は、配属の前年度までにV項の資格を取得した者について、教授会において定める。特別実習は、薬科学科は4月から実施し、薬学科は10月から実施する。
 - ニ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て分野への配属を定めることがある。
- VII 医療実務事前学習の受講資格は、次の規定によるものとする。
- イ 「全学共通科目」の卒業要件単位並びに、「学部科目」において、薬学科の必修科目42単位以上、指定科目20単位以上、薬学専門実習16単位を修得し、かつ特別実習の分野配属をしている者は、医療実務事前学習を受講することができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て医療実務事前学習の受講を許可することができる。
- VIII 病院実務実習、薬局実務実習を受ける資格は、次の規定によるものとする。
- イ 医療実務事前学習2単位を修得し、共用試験に合格した者は、病院実務実習、薬局実務実習を受けることができる。
 - ロ 前項の規定にかかわらず特別の理由がある場合は、教授会の議を経て病院実務実習、薬局実務実習を許可することができる。

附 則

- 1 この学修要項は、平成 18 年 4 月 1 日から実施する。

〔中間の改正規程の附則は、省略した。〕

附 則

- 1 この学修要項は、平成 25 年 4 月 1 日から実施する。

平成19～24年度入学者の
卒業に必要な単位数

区 分		修得すべき単位数（卒業必要単位数）		計
全 学 共 通 科 目	A群（人文・社会科学系科目）	選択科目 ※1	20単位以上	20単位以上
	B群 （自然科学系科目）	必修科目	10単位	26単位以上
		選択必修科目 ※2	12単位以上	
		選択科目（必修科目及び選択必修科目以外の科目）	4単位以上	
	C群 （外国語科目）	第1外国語（英語） 必修科目 選択科目	8単位以上 （2単位） （6単位以上）	12単位以上
		第2外国語（英語以外の1外国語） 選択科目	4単位以上 （4単位以上）	
計		58単位以上		
学 部 科 目	講 義	必修科目	48単位	90単位以上
		指定科目	30単位以上	
		選択科目	12単位以上	
	実 習	実習科目	16単位	46単位以上
		実務実習	20単位	
		特別実習	10単位	
計		136単位以上		
合 計		194単位以上		

注) 全学共通科目及び学部科目の必修科目、選択必修科目、指定科目及び選択科目等の各授業科目については、それぞれ別に定める。

※1 全学共通科目A群20単位のうち2単位はD群科目を充てることができる。(H20入学者以降)

※2 全学共通科目B群の選択必修科目の卒業必要単位数12単位を超えて修得したときの単位数は、同群選択科目の卒業必要単位数に算入する。

【科目区分の定義】

- ・必修科目：卒業するために単位取得が絶対に必要な科目。
- ・指定科目：卒業に必要な単位数を取得する際、必修科目ほど必須ではないが、薬学科において履修が強く推奨される学部専門科目。
- ・選択必修科目：卒業に必要な単位数を取得する際、必修科目ほど必須ではないが、薬学部において履修が強く推奨される全学共通科目。
- ・選択科目：卒業に必要な単位数を取得する際、選択することが可能な科目。

【薬学科：6年制】

平成19～24年度入学者の
全学共通科目の卒業必要単位数

群	授業科目、必修・選択必修科目の別、単位数その他			
B群	(自然科学系科目)		26単位以上	
	区分	科目名	単位数	備考
	必修科目	「薬の世界」入門 *1	2	薬学部開講科目
		健康・生命科学入門 *2	2	同上
		基礎物理化学(熱力学) *3	2	同上
		基礎有機化学Ⅰ *4	2	同上
		基礎有機化学Ⅱ *5	2	同上
	選択必修科目	数学基礎ⅠA *6	2	ⅠA、ⅡAを併せて履修することが望ましい。
		数学基礎ⅡA *6	2	
		数学基礎ⅠB *6	2	ⅠB、ⅡBを併せて履修することが望ましい。
		数学基礎ⅡB *6	2	
		線形代数学A *6	2	
		線形代数学B *6	2	
		物理学基礎論A	2	
		物理学基礎論B	2	
		熱力学	2	
		物理学実験	2	
		基礎化学実験	2	
		生物学実習Ⅲ	2	
		薬用植物学	2	薬学部開講科目
情報基礎 *7		2	同上	
情報基礎演習 *8		2	同上	
選択科目	上記以外の科目			
C群	(外国語科目)		12単位以上	
	第1外国語 英語	8単位以上		
	必修科目 科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A・B *9	2単位		
	選択科目	6単位以上		
	第2外国語 英語以外の1外国語	4単位以上		
	〔ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語、アラビア語、日本語(留学生のみ)〕			

- 注1) 新入生向け少人数セミナー(ポケット・ゼミ)は卒業に必要な単位数に算入する。
 2) KUINEPは卒業に必要な単位数に算入する。
 3) *1は旧科目名「薬学倫理・概論」
 4) *2は旧科目名「薬学生物学」
 5) *3は旧科目名「薬学物理化学(化学熱力学)」
 6) *4は旧科目名「基礎有機化学A」
 7) *5は旧科目名「基礎有機化学B」
 8) *6は平成28年度のみ開講、平成29年度以降は不開講
 9) *7は旧科目名「基礎情報処理1」
 10) *8は旧科目名「基礎情報処理2」または「情報基礎実践」
 11) *9は旧科目名「科学英語A・B」

平成19～24年度入学者の薬学部開講科目配当表

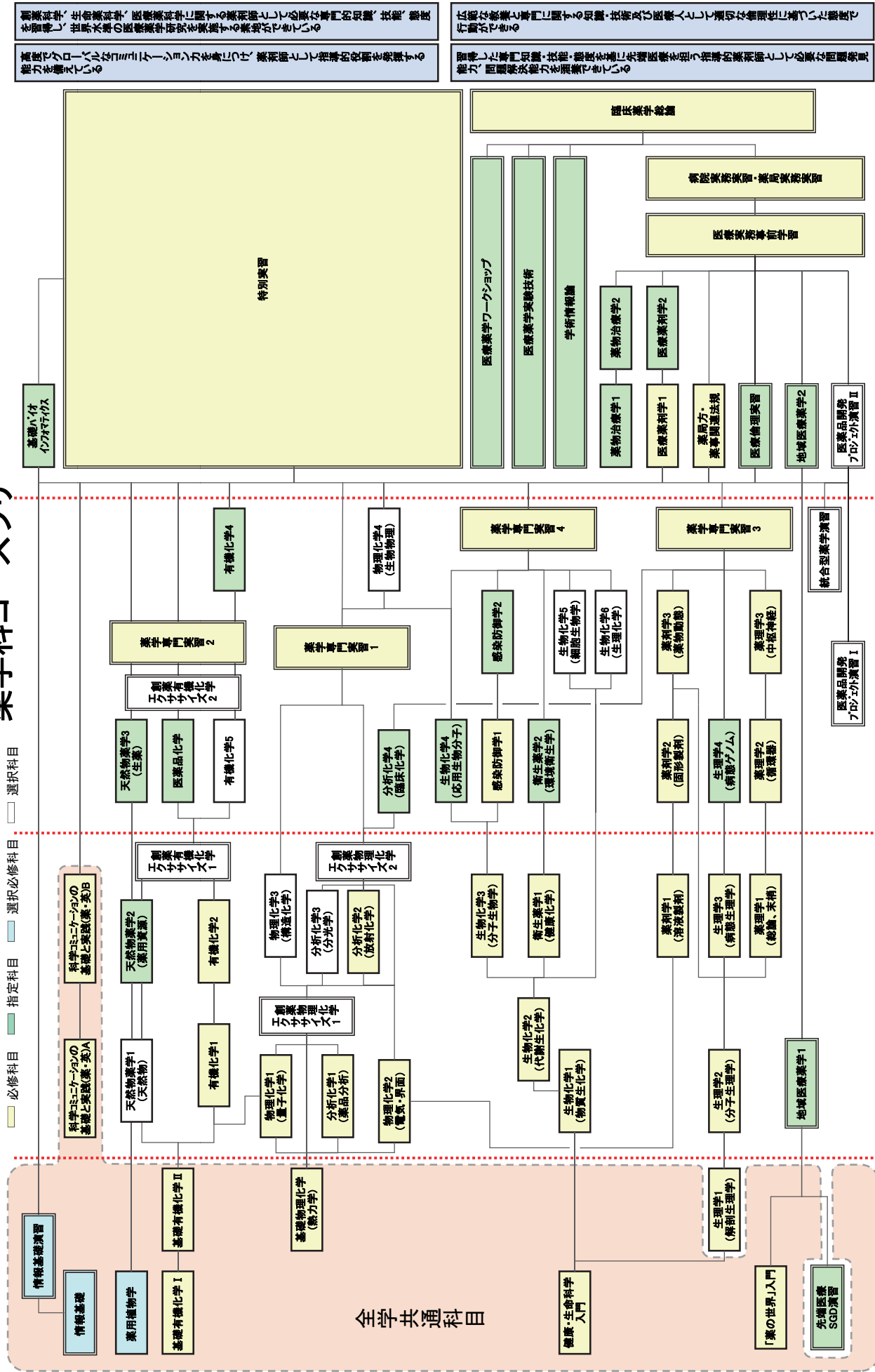
区分	授業科目名	ナンバリングコード	単位	必修科目 指定科目 選択科目の別 (現行)	配 当 年 次														
					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次				
					前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
全学 共通科目	B群	「薬の世界」入門 *1	2	必修	2														
		健康・生命科学入門 *1	2	必修	2														
		基礎物理化学(熱力学) *1	2	必修		2													
		薬用植物学	2	選必		2													
		基礎有機化学Ⅰ *1	2	必修	2														
		基礎有機化学Ⅱ *1	2	必修		2													
		情報基礎 *1	2	選必	2														
	情報基礎演習 *1	2	選必	2															
	C群	科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A *1	1	必修			2												
科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)B *1		1	必修				2												
学部 専門科目	化学系	有機化学1 *1	UPHA002A011LJ86	2	必修			2											
		有機化学2 *1	UPHA002A012LJ86	2	必修				2										
		医薬品化学 *1	UPHA003A016LJ86	2	指定					2									
		有機化学4 *1	UPHA003A014LJ86	2	指定						2								
		有機化学5 *1	UPHA003A015LJ86	2	選択						2								
		天然物薬学1(天然物化学)	UPHA002A006LJ86	2	★			2											
		天然物薬学2(薬用資源学)	UPHA002A007LJ86	2	指定				2										
		天然物薬学3(生薬学)	UPHA003A008LJ86	2	★					2									
		創薬有機化学エクササイズ1 *1	UPHA002A017SJ86	2	選択						2								
		創薬有機化学エクササイズ2 *1	UPHA003A018SJ86	2	選択							2							
	物理系	物理化学1(量子化学)	UPHA002A101LJ86	2	必修			2											
		物理化学2(電気化学・界面化学)	UPHA002A102LJ86	2	必修			2											
		物理化学3(構造化学)	UPHA002A103LJ86	2	選択				2										
		物理化学4(生物物理化学)	UPHA003A104LJ86	2	選択					2									
		分析化学1(薬品分析化学)	UPHA002A106LJ86	2	必修			2											
		分析化学2(放射化学)	UPHA002A107LJ86	2	必修				2										
		分析化学3(分光化学)	UPHA002A108LJ86	2	選択					2									
		分析化学4(臨床化学)	UPHA003A109LJ86	2	指定						2								
		創薬物理化学エクササイズ1	UPHA002A110LJ86	2	選択			2											
		創薬物理化学エクササイズ2	UPHA002A111LJ86	2	選択				2										
	生物系	生物化学1(物質生化学)	UPHA002A201LJ86	2	必修			2											
		生物化学2(代謝生化学)	UPHA002A202LJ86	2	必修			2											
		生物化学3(分子生物学) *1	UPHA002A214LJ86	2	必修				2										
		生物化学4(応用生物分子科学) *1	UPHA003A215LJ86	2	指定					2									
		生物化学5(細胞生物学)	UPHA003A205LJ86	2	選択						2								
		生物化学6(生理化学)	UPHA003A206LJ86	2	選択							2							
		感染防御学1 *1	UPHA003A216LJ86	2	必修					2									
		感染防御学2 *1	UPHA003A217LJ86	2	指定								2						
		衛生薬学1(健康化学)	UPHA002A212LJ86	2	必修						2								
		衛生薬学2(環境衛生学)	UPHA003A213LJ86	2	指定								2						

新科目名	旧科目名	変更年度
地域医療薬学	医療薬学チュートリアル演習2	H21
医薬品開発学	応用バイオインフォマティクス	H21
先端医療SGD演習	先端医療SGD演習1	H22
情報基礎	基礎情報処理1	H25
情報基礎実践	基礎情報処理2	H25
有機化学1	有機化学1(有機合成化学)	H25
有機化学2	有機化学2(生物有機化学)	H25
有機化学3	有機化学3(創薬化学)	H25
有機化学4	有機化学4(精密合成化学)	H25
有機化学5	有機化学5(生体機能化学)	H25
生物化学3(分子生物学)	生物化学3(基礎遺伝子学)	H25
生物化学4(応用生物分子科学)	生物化学4(応用遺伝子学)	H25
基礎物理化学(熱力学)	薬学物理化学(化学熱力学)	H27
基礎有機化学Ⅰ	基礎有機化学A	H27
基礎有機化学Ⅱ	基礎有機化学B	H27
「薬の世界」入門	薬学倫理・概論	H28
健康・生命科学入門	薬学生物学	H28
情報基礎演習	情報基礎実践	H28
医薬品化学	有機化学3	H28
創薬有機化学エクササイズ1	創薬有機化学エクササイズ	H28
創薬有機化学エクササイズ2	医薬品化学・新薬論	H28
感染防御学1	微生物学1(細菌学)	H28
感染防御学2	微生物学2(ウイルス学)	H28
科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)A	科学英語A	H29
科学コミュニケーションの基礎と実践(薬・英)B	科学英語B	H29

共 通 事 項

薬学科コースツリー

必修科目
 指定科目
 選択科目



科目内容

薬学科

「薬の世界」入門 [全学共通科目]

教授	高倉喜信
教授	中山和久
教授	松崎勝巳
教授	加藤博章
教授	金子周司
教授	岡村均
教授	掛谷秀昭
教授	石濱泰誠
教授	高須清
准教授	小野正博
講師	三宅歩
講師(非)	松原和夫
講師(非)	緒方博之
講師(非)	今西未来

薬学は、医薬品の創製、生産、管理、適正使用にわたる広範な領域を包括する総合科学である。その一方で、薬の有効性・安全性に関する科学的観点からは、人類の健康に貢献する責任を負う実学でもある。このような視点から、薬学の学問・研究、社会的使命、薬学倫理等の概要について講述する。

健康・生命科学入門 [全学共通科目]

教授	竹島浩
准教授	柿澤昌

生化学、分子生物学への入門としての生物学を講義する。

基礎物理化学（熱力学） [全学共通科目]

准教授	星野大
講師	矢野義明

物質の状態と自然の自発的過程を規定する巨視的ポテンシャル論としての熱力学の基礎知識を、生物科学や薬学の基礎的問題を加味した講義を通して修得する。

薬用植物学 [全学共通科目]

准教授	伊藤美千穂
-----	-------

天然薬物資源の大部分を占める薬用植物及び生薬を学ぶ上で必要な植物学、すなわち薬学的植物学および関連の最近の話題等を講義する。

基礎有機化学Ⅰ [全学共通科目]

教授	高須清誠
----	------

生命科学から材料科学に渡る物質科学の共通の言語として有機化学を修得することの意義は大きい。本講義では、化学結合と炭化水素類の基本的性質についての講義を通じて、有機化合物の構造と性質および反応性に関する基礎的知識・概念を修得することを目的とする。

基礎有機化学Ⅱ [全学共通科目]

教授 大野 浩章

置換反応や脱離反応等の基本反応を修得するために、化合物の構造と性質を理解すると共に、各反応のメカニズムを理論的に考察する。さらに、反応を深く理解するために、分子軌道論を修得する。

情報基礎 [全学共通科目]

准教授 中津 亨

准教授 平澤 明

薬学、生命科学およびバイオインフォマティクスの授業や実習の理解と将来の研究活動に必要な情報科学ならびに情報処理の基礎を講述し、演習を行う。

情報基礎演習 [全学共通科目]

准教授 中津 亨

准教授 平澤 明

薬学分野、生命科学およびバイオインフォマティクスの授業や実習の理解と将来の研究活動に必要な情報処理を自分ひとりで行えるようになるための演習を行う。

科学コミュニケーションの基礎と実践 (薬・英) A・B [全学共通科目]

特定講師 Jean Michel Fustin

近年、科学の分野でも国際化が進み、その共通語として使用されているのは英語である。本講義では、薬学を中心とした自然科学に関する英語論文の構成、表現法などを講述し、科学的実験の方法、結果、データの解釈・考察などを英語で適確に表現するための基礎を教育する。

有機化学 1

教授 竹本 佳司

有機化学の反応で最も多彩な反応性を示すカルボニル化合物に焦点をあて講義をする。アルデヒド、ケトン、カルボン酸誘導体の構造、物理的性質、反応性について学び、合成反応として重要な環化反応や炭素-炭素結合形成反応について体系的に修得する。また、有機金属化合物の反応性や還元反応についても概説する。

有機化学 2

教授 高須 清誠

医薬品の重要な基本骨格である芳香族化合物、アミン、複素環化合物の物性と反応、および、薬物代謝、放射線・紫外線による損傷、腐敗といった現象を理解する上で不可欠なラジカル反応の基礎について講義する。基本的知識の習得とあわせて、共鳴・分子軌道といった重要概念について理解を深める。

医薬品化学

准教授 大石 真也

有機化学の基礎知識を習得していることを前提として、生体分子との分子認識に基づく医薬品の作用メカニズムを理解する。新薬創製につながる医薬品の分子設計概念の基礎と応用例について講義する。

有機化学 4

講師 塚野 千尋

医薬品を含め生物活性有機化合物の合成方法論を主題とする選択的反応、立体電子効

果、逆合成解析の基本的な概念を学び、演習を通して理解を深める。また有機金属試薬の反応性、ラジカル反応・転位反応を用いた炭素-炭素結合形成反応についても講義する。

有機化学 5

講師(非) 川端 猛 夫
講師(非) 古田 巧

立体化学、触媒反応、不斉合成、エノラート化学をテーマに有機反応が起こる仕組みと必然性を一貫したルールに基づいて講述する。
電子の移動を図示して反応機構を説明できること、分子の配座を図示して反応の立体化学を説明・予測できることを目標とする。

天然物薬学 1 (天然物化学)

准教授 服部 明

生命現象を司る天然有機化合物の構造、化学的性質について学び、生体分子間の分子認識や相互作用をはじめとする生体有機化学反応について理解を深める。

天然物薬学 2 (薬用資源学)

教授 掛谷 秀昭

天然に存在する重要な薬用資源について、構造決定法、起源と薬効成分、生合成、作用機序、応用開発等について講義する。

天然物薬学 3 (生薬学)

准教授 伊藤 美千穂

生薬に関する基礎的事項から現代社会の中での利用に及ぶ概論と漢方の基礎、主要生薬類の各論について講義する。

創薬有機化学エクササイズ 1

助教 山岡 庸介
助教 小林 祐輔

基礎有機化学 I・II と有機化学 1・2 で修得した有機化学の体系的知識をもとに、基本的な有機化学の問題演習を行う。

創薬有機化学エクササイズ 2

教授 高須 清誠
講師 塚野 千尋
助教 西村 慎一
助教 小林 祐輔

有機化学、医薬品化学、天然物化学の講義で修得した医薬品に用いられる化合物に関する体系的知識をもとに、創薬研究に有用な実践的な有機合成化学演習を行う。

物理化学 1 (量子化学)

教授 加藤 博章

分子構造を理解するための量子化学、化学結合の基礎事項について講義する。

物理化学 2 (電気化学・界面化学)

教授 松崎 勝巳

複雑な不均一界面系(微小粒子系を含む)の基本的性質と研究方法、電解質水溶液の

イオン平衡とイオン輸送、ならびに、これらの生命科学や薬学への応用について講義する。

物理化学 3 (構造化学)

教授 加藤博章

タンパク質や DNA など生体分子の立体構造と機能およびその解析方法について講述する。

物理化学 4 (生物物理化学)

教授 松崎勝巳

教授 加藤博章

教授 石濱泰

准教授 星野大

准教授 中津亨

准教授 杉山直幸

脂質分子による膜構造の形成、タンパク質-脂質相互作用、物質の膜透過、タンパク質の構造形成、プロテオミクスなどタンパク質および生体膜の生物物理化学を講義する。

分析化学 1 (薬品分析化学)

教授 石濱泰

酸-塩基反応、錯生成反応、イオン交換、クロマトグラフィー、電気泳動、電気化学分析法、などの理論と方法および薬学への応用について講義する。

分析化学 2 (放射化学)

准教授 小野正博

化学反応での物質の変化の過程を取り扱う反応速度論、原子核の変化が関係する放射線に関する物理学・化学・生物学について講義する。

分析化学 3 (分光化学)

教授 石濱泰

准教授 杉山直幸

紫外・可視・赤外線吸光分析法、蛍光、NMR、熱分析、ラマン、原子吸光、旋光分散、円偏光二色性(CD)および質量分析法の理論と応用について講義する。

分析化学 4 (臨床化学)

准教授 小野正博

生体の形態・機能の画像解析法、生物学的反応(酵素反応・免疫反応)を用いる化学分析法を中心に、臨床領域で用いられる分析法の基礎と応用について講義する。

創薬物理化学エクササイズ 1

教授 加藤博章

教授 石濱泰

准教授 星野大

講師 矢野義明

薬学物理化学、分析化学 1、物理化学 1 の講義内容に対応した演習を中心に行なう。

創薬物理化学エクササイズ2

教授 松崎勝巳
教授 石濱泰博
准教授 小野正博
准教授 杉山直幸

分析化学2、分析化学3、物理化学2の講義内容に対応した演習を中心に行なう。

生物化学1 (物質生化学)

准教授 柿澤昌

アミノ酸、ペプチド、タンパク質、酵素化学を中心として生化学の基本原則について講義する。

生物化学2 (代謝生化学)

教授 中山和久
准教授 申惠媛

生命活動の基本となるエネルギー代謝、および生体を構成する糖質、脂質、アミノ酸、ヌクレオチドの合成と分解について理解することを目的とする。さらに、インスリンやグルカゴンなどのホルモンによるこれらの代謝の調節と統合について理解を深めるとともに、生体の恒常性の維持機構について学ぶ。

生物化学3 (分子生物学)

講師 三宅歩

核酸及び遺伝子発現の機作の生化学について講義する。

生物化学4 (応用生物分子科学)

講師(非) 二木史朗
講師(非) 今西未来

遺伝子組換え技術・タンパク質工学に関する基礎知識、およびその医療・薬学への応用について講義する。

生物化学5 (細胞生物学)

教授(生命科学研究科) 井垣達吏
准教授(生命科学研究科) 大澤志津江
助教(生命科学研究科) 榎本将人

細胞生物学の基礎、細胞増殖や細胞死の機構、細胞社会の成立原理などについて講義する。

生物化学6 (生理化学)

教授(生命科学研究科) 根岸学

生体内における種々の組織及び細胞の機能とその調節機構について概説し、それらを制御する情報伝達物質(ホルモン・神経伝達物質・オータコイド・成長因子等)の特性と、それにより引き起こされる細胞内での様々な応答作用の分子メカニズムについて講義する。

感染防御学1

講師(非) 小柳義夫
講師(非) 生田宏一
講師(非) 竹内理

講師(非) 栗原達夫

講師(非) 佐藤佳

微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌の形態、物質代謝、遺伝学、病原性、化学療法などを中心に講義する。

感染防御学 2

講師(非) 小柳義夫

講師(非) 竹内理

講師(非) 安永純一郎

講師(非) 佐藤佳

講師(非) 松岡雅雄

人と係わりの深い動物ウイルスを中心としたウイルス学の講義を行い、ウイルスに対する生体防御機構、ワクチンおよび抗ウイルス剤についても解説する。

衛生薬学 1 (健康化学)

教授 中山和久

人の健康の維持および増進と環境因子や薬物との関連を理解するために、栄養素と食品の化学、食品衛生について学ぶ。また、経口感染症や食中毒に関して、公衆衛生的観点から理解を深める。

衛生薬学 2 (環境衛生学)

教授 中山和久

環境と人間の相互作用の重要性を理解し、生活環境の質の評価および確保の方法、および保健衛生について学ぶ。また、化学物質と生体とのかかわり、特に異物の体内動態と代謝反応についての理解を深める。

生理学 1 (解剖生理学)

教授 岡村均

准教授 土居雅夫

助教 山口賀章

薬学の基礎となる生理学の基本原則および生体の構造と機能を概説する。

生理学 2 (分子生理学)

教授 金子周司

薬学の基礎となる生理機能の分子メカニズムについて概説する。

生理学 3 (病態生理学)

教授 岡村均

准教授 土居雅夫

准教授 平澤明

病気治療薬を創生するためには、生命活動、特に人の生理とその異常(病態生理)のメカニズムを理解する必要がある。本課程では医療薬学、創薬科学の基礎となる生理・病態生理を概説する。

生理学 4 (病態ゲノム学)

教授 岡村均

准教授 土居雅夫

ゲノム情報を利用した病態の理解や予防、あるいは治療を行う試みについて事例を提示し概説する。

薬理学 1 (総論・末梢薬理)

准教授 久米利明
助教 泉安彦
講師(非) 小坂田文隆

薬理学総論 (薬物の生体に対する作用、薬物レセプター、作用機序、薬効に影響を及ぼす諸因子及び薬物併用時の作用) について概説し、ついで、自律神経系作用薬、神経筋接合部作用薬、局所麻酔薬等の薬理作用について講義する。

薬理学 2 (循環器薬理)

准教授 白川久志

循環器、血液系、泌尿器、呼吸器および消化器での疾病の治療に用いられる薬物の薬理について、これら臓器の生理、疾患の発生機序と疫学、薬物治療のターゲットとなる生体分子と薬物の分子作用メカニズム、臨床応用での薬物選択における注意点や問題点などともに、新薬の開発動向と関連学問領域の最新知見について講義する。

薬理学 3

准教授 久米利明
助教 泉安彦

中枢神経は、外界から受け取った情報を処理して適切な生体応答を導く働きを担う重要なコントロールセンターである。本講義では中枢神経の異常に由来する種々の疾患について概説するとともに、神経伝達に対する薬物の作用を中心として、向精神薬、神経疾患治療薬、抗不安薬、催眠・麻酔薬、麻薬性鎮痛薬などの作用メカニズム、安全性、臨床応用について講義する。

薬物治療学 1

教授 金子周司
准教授 白川久志

呼吸器、消化器、骨、感覚器などで起こる疾患は、免疫、内分泌、神経などの内因的な要因と、生活習慣、感染などの外因的な要因が、加齢という時間軸に沿って複雑に相互作用することによって発生している。本講義では、それらの疾患について、臓器の生理、疾病の病態と発生要因を理解した上で、さまざまな作用に基づいて行われる薬物治療の実際とそのメカニズムについて理解を深める。

なお、後半で文献調査、グループ討議、発表会を行い、自発的な学習方法を学ぶ。

薬剤学 1 (溶液製剤論)

教授 山下富義

製剤特性が比較的単純な注射剤をはじめとする液状製剤を取り上げ、その治療上の意義、製剤設計法、製造法および評価法について、基礎から臨床に至る総合的な視点を理解する。

薬剤学 2 (固形製剤論)

講師(非) 西川元也
助教 高橋有己

临床上最も繁用されている経口投与製剤を始めとする各種固形製剤および半固形製剤

を取り上げ、その治療上の意義、製剤設計法、製造法、および機能性評価法などについて、基礎から臨床応用に至る総合的な視点により講義する。

薬剤学 3 (薬物動態学)

教授 高倉 喜信

薬物の生体内運命、すなわち吸収、分布、代謝、排泄、及びこれに関連する Pharmacokinetics について講義する。

医療薬剤学 1

准教授 米澤 淳

講師(非) 松原 和夫

講師(非) 中川 貴之

チーム医療における薬剤師の役割及び、薬剤業務の基盤となる調剤、薬品管理、院内製剤、医薬品情報などについて概説する。さらに、患者に対して有効かつ安全性の高い薬物療法を提供するための基礎となる薬物相互作用、臨床薬物動態、薬物血中濃度モニタリング (TDM) などについて講義する。

医療薬剤学 2

准教授 米澤 淳

講師(非) 松原 和夫

講師(非) 中川 貴之

有効かつ安全性の高い薬物療法の提供に薬剤師として寄与するために、服薬指導や薬学的管理に必要な基本的事項について講義する。また、症例を用いた PBL 形式での演習を通して、病態とキードラッグの使用上の注意点について理解を深める。

薬局方・薬事関連法規

講師 樋口 ゆり子

講師(非) 山本 いづみ

(薬局方) 日本薬局方の性格、通則及び代表的な一般試験法、収載薬品等について理解する。

(薬事法規) 薬事関連の各法律に関して、その内容、背景、運用について理解するとともに、医薬品の開発、使用に関連する薬事制度、行政の役割を理解する。

医療薬学ワークショップ

医療系教員、配属分野教員

医療薬学に関連する実務や研究等について、講義、実験、演習、調査、実地経験などを通じて知識、技能、態度を修得する。

医療薬学実験技術

医療系教員、配属分野教員

医療薬学に関連する実験技術の基本を学び、実習指導を通じて技能を修得する。

学術情報論

配属分野教員

医療薬学に関連する最新の研究動向について、演習形式での発表と議論を通じて知識を習得する。

医療実務事前学習

教授 高倉喜信
教授 山下富義
特定講師 津田真弘
講師(非) 永安一樹
薬学研究科教員

講師(非) 医学部附属病院薬剤部教員及び薬剤師

薬剤師として国民の公衆衛生の向上に貢献できるようになるため、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤、製剤、服薬指導など薬剤業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

臨床薬学総論

教授 金子周司
教授 高倉喜信
講師(非) 松原和夫

臨床薬物治療に関して、薬物動態学、薬物治療学、診断学の視点から最新の話題と問題点を包括的に学び、薬学人が医療においてその使命を果たすために必要な基本的諸事項を理解する。なお、国試対応試験を併せて行う。

地域医療薬学 1

教授 金子周司
特定講師 津田真弘
講師(非) 鈴木匡
講師(非) 中川直人

超高齢社会を迎えたことによる在宅医療などの必要性の増加や、医療分業の進展による薬剤師の職能の変化に対応するため、地域医療と薬剤師の役割を学ぶとともに、在宅医療、学校薬剤師、災害時医療など現在の薬剤師に求められている活動に関する基本的知識、態度を修得する。

地域医療薬学 2

(未定)

先端医療 S G D 演習

教授 山下富義
特定講師 津田真弘
医療系教員

将来、薬剤師として活躍するために、早期体験学習として病院や薬局など、卒業生の活躍する現場を見学、体験する。また、高度先端医療や臨床研究、創薬研究に関わるための基礎となる技能、態度を身につけるために、講義や見学、体験学習を通じて医療人としての心構えを学び、また、医療人としてのコミュニケーション能力の向上、を目的とした実習、演習を行う。

医薬品開発プロジェクト演習 I

教授 高須清誠

製薬企業において実際に開発に成功した代表的医薬品を題材にし、探索研究から臨床研究医薬品候補の決定までのプロセスを仮想的に体験する。学生少人数からなるグル

ープを仮想開発プロジェクトチームとして組織し、研究会議・製品開発会議での討議を通してグループ内で最善と思われる解決方法を導く訓練を行う。それにより、創薬に関して必要な知識・発想法・調査法・討論法を取得する。

医薬品開発プロジェクト演習Ⅱ

教授 山下 富義
特定講師 津田 真弘

将来、医薬品開発と生産に参画できるようになるために、医薬品開発の各プロセスについての基本的技能と態度を修得する。具体的には、学生に対して、実際の現場で使用する治験薬概要書、治験実施計画書、症例報告書、説明文書を提供し、医師に対する協力要請、医療機関における説明をロールプレイ方式で演習する。

統合型薬学演習

教授 高倉 喜信

創薬・生命・医療研究への意識を持った薬剤師や創薬研究者のリーダーとなるために、1年次に小グループ討論を通じて薬学生としてのモチベーションを向上させ、目的意識を明確にする。また、3年次に薬学研究科内で行われている研究を学び、また製薬企業を見学することにより、分野配属前に創薬・開発を意識した先端的な知識を習得する。

医療倫理実習

教授 山下 富義
准教授 久米 利明
特定講師 津田 真弘
講師(非) 小西 靖彦
講師(非) 松村 由美
講師(非) 及川 沙耶佳
講師(非) 柴原 真知子

安全への配慮を身につけた薬剤師や創薬研究者のリーダーとなるために、医療安全や関連法規の意義と概要を理解し、医療安全対策の基本的な考え方を身につけ、医療安全に対する関心を深める。また、医療スタッフのシャドーイングを行い、多職種連携の現場を見学・体験することで、患者中心のチーム医療の重要性について理解する。

基礎バイオインフォマティクス

講師(非) 奥野 恭史
准教授 白川 久志

バイオインフォマティクスとは計算機によって生物の情報を扱う学問領域である。本科目では生物学や薬学におけるバイオインフォマティクスの可能性と具体的な事例について講術する。さらに、実戦的技術の体得を目指し、端末を用いた演習も行う。

薬学専門実習1

准教授 中津 亨
准教授 星野 大
准教授 杉山 直幸
講師 矢野 義明
助教 山口 知宏

全実習を通じての基礎となる実験データの取り扱いと統計処理を学んだ後、分析学および物理化学に関する基礎的測定法、すなわち、分光分析、中和滴定、分離分析、質量分析、電気化学的測定（膜表面電位・導電率・起電力）、X線結晶構造解析、タンパク質の立体構造、プログラミングなどを実習する。

薬学専門実習 2

准教授	伊藤美千穂
准教授	服部明
准教授	大石真也
講師	塚野千尋
助教	西村慎一
助教	山岡庸介
助教	小林祐輔

有機化合物の精製法を実習し、有機化学実験の基本操作を習得する。基本的な単位反応を実習し、天然有機化合物、医薬品およびペプチドの多段階合成を習得する。医薬品としての微生物代謝産物・生薬・薬用植物の取扱いを実習し、天然有機化合物の単離・同定法、標識法、標的タンパク質同定法、生薬の鑑別法および生薬製剤の調製法を習得する。

薬学専門実習 3

准教授	久米利明
准教授	小野正博
准教授	土居雅夫
准教授	白川久志
講師	樋口ゆり子
助教	山口賀章
助教	泉安彦
助教	高橋有己
助教	渡邊裕之

実験動物・放射線の基本的な取扱い手技を習得し、動物の解剖および動物個体・摘出臓器標本を用いた薬物の作用点評価法および薬効試験法の実習をするとともに、薬物の体内動態の解析を通じて、生体機能の生理的調節機構を理解する。脳に関しては、その構造、機能検査の実習をする。また放射性医薬品の調製法、処方箋調剤並びに臨床検査と関連した生体内微量成分分析法についての実習をする。さらに各種製剤試験法、核医学診療や臨床試験法の実際について学ぶ。

薬学専門実習 4

准教授	申惠媛
准教授	平澤明
准教授	柿澤昌
准教授（生命科学研究科）	加藤裕教
准教授（生命科学研究科）	大澤志津江
講師	三宅步
助教	加藤洋平
助教（生命科学研究科）	榎本将人

生物化学実習Ⅰ～Ⅴ及び微生物学実習からなり、生物化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでは、糖質、タンパク質、核酸、酵素などの生体高分子成分の分離、分析法及びその生化学的取り扱い方を習熟させる。生物化学実習Ⅳ、Ⅴでは、培養細胞や動物を用いて、細胞の代謝調節機構について実習を行う。微生物学実習では、細菌学、ウイルス学、免

疫学に関する基本的な実験技術を習得させる。

病院実務実習

准教授	米澤	澤	淳
教授	高倉	喜	信
教授	山下	富	義
特定講師	津田	真	弘
講師(非)	松原	和	夫
講師(非)	中川	貴	之
講師(非)	深津	祥	央
講師(非)	石塚	良	子
講師(非)	池見	泰	明
講師(非)	今井	哲	司
講師(非)	大村	友	博
講師(非)	中川	俊	作
講師(非)	猪熊	容	子
講師(非)	石橋	直	哉
講師(非)	祝千	佳	子
講師(非)	上杉	美	和
講師(非)	老本	名	津子
講師(非)	岡村	みや	子
講師(非)	尾崎	淳	子
講師(非)	梶原	望	渡
講師(非)	佐藤	裕	紀
講師(非)	杉本	充	弘
講師(非)	端	幸	代
講師(非)	松田	裕	也
講師(非)	森田	真	樹子
講師(非)	森田	洋	亮
講師(非)	山際	岳	朗
講師(非)	山本		崇
講師(非)	吉田	優	子

病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画するために、調剤および医薬品管理、医薬品情報、製剤、病棟薬剤業務などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

薬局実務実習

教授	高倉	喜	信
教授	山下	富	義
特定講師	津田	真	弘
			薬学研究科教員
講師(非)			保険薬局担当薬剤師

薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画するために、保険調剤、健康・保健衛生についての基本的な知識、技能、態度を修得する。

特別実習

分野に配属して、下記の研究領域の特定の課題について研究を行う。

記

薬品合成化学
薬品分子化学
薬品資源学
薬品機能解析学
構造生物薬学
製剤機能解析学
生体分子認識学
ケモゲノミクス・薬品有機製造学
システムバイオロジー
システムケモセラピー（制御分子学）

薬品動態制御学
薬品作用解析学
臨床薬学教育学
病態機能分析学
病態情報薬学
医療薬剤学
薬理ゲノミクス・ゲノム創薬科学
生体機能解析学
遺伝子薬学
生体情報制御学
実践臨床薬学

平成29年度 実習日程表

回生	実習科目名	実習室	期 間	備 考
3	薬学専門実習 1	本館地下 等	平成29年 4/10(月) ～5/26(金)	入学式 4/7(金) 健康診断日(授業休止) 4/14(金)午後
	薬学専門実習 2	本館地下 等	5/29(月) ～7/24(月)	創立記念日 6/18(日) 前期試験 7/31(月)～8/4(金) 夏季休業 8/6(日)～9/30(土)
	薬学専門実習 3	本館地下 等	10/2(月) ～11/20(月)	11月祭(授業休止) 11月下旬
	薬学専門実習 4	本館地下 R I 等	11/21(火) ～12/28(木) 平成30年 1/4(木) ～1/11(木)	授業休止・冬期休業 12/29(金)～1/3(水) 大学入試センター試験準備(授業休止) 1/12(金) 大学入試センター試験 1/13(土)～1/14(日) 後期試験 1/31(水)～2/6(火)
4 ～6	特別実習	各分野研究室 (実務実習期間以外)		
5	実務実習	<p>病院実務実習11週間、薬局実務実習11週間</p> <p>各学生は下記の3期うち2期の期間に約10名ずつに分かれて病院実務実習と薬局実務実習を履修する。</p> <p>A日程：平成29年5月8日(月)～平成29年7月23日(日)</p> <p>B日程：平成29年9月4日(月)～平成29年11月19日(日)</p> <p>C日程：平成30年1月9日(火)～平成30年3月26日(月)</p> <p>場所： 病院実習： 京大病院 薬局実習： 実務実習調整機構を介して決定した受け入れ薬局(予定)</p>		

注) 単位認定は実習科目ごとに行う。

◆共用試験について

薬学共用試験は、薬学教育課程（6年制）の学生が実務実習（5年次）を始める前に受ける試験です。全国の薬科大学・薬学部が共通で利用する評価試験です。

6年制課程の薬学教育では、実践能力を持つ薬剤師の養成を目的に、参加型の実習を行います。そのため、患者さんの安全や権利等を確保するためにいくつかの条件（患者の同意、実務実習を行う目的の正当性、および薬学生の行為の相当性）を満たす必要があります。そのひとつの条件として、薬学生が実務実習を行うに必要なかつ十分な基礎的知識や技能・態度を備えているかどうかを評価し、保証するのが、共用試験です。

共用試験は、「知識および問題解決能力を評価する客観的試験（CBT）」と、「技能・態度を評価する客観的臨床能力試験（OSCE）」に分けられます。

（平成29年度の予定）

CBT 体験受験（平成29年9月8日（金））

CBT 本番（平成30年1月9日（火））、 CBT 再試（平成30年2月23日（金））

OSCE 本番（平成29年12月23日（土））、 OSCE 再試（平成30年3月3日（土））

知識および問題解決能力を評価する客観的試験（CBT）

CBTはコンピュータを用いた試験（Computer-based Testing）です。合計310問（予定）の多肢選択問題が学生ごとにランダムに出題されます。薬学生として最低限必要な専門知識（薬学教育モデル・コアカリキュラム参照、日本薬学会ホームページ <http://www.pharm.or.jp/kyoiku/index.html>）および実務実習に出る前に最低限必要な知識が対象です。

技能・態度を評価する客観的臨床能力試験（OSCE）

OSCE（Objective Structured Clinical Examination）は、学習者の基本的な臨床技能および態度を客観的に評価するために開発された評価方法であり、「実地試験」、「模擬患者が参画したシミュレーションテスト」に相当します。いくつかの小部屋が準備され、受験生はそれを順に回って課題表に示された項目を定められた時間内に実施します。「患者・来局者対応」、「薬剤の調製」、「調剤監査」、「無菌操作」、「情報の提供」などの課題があります。

**平成29年度 講義科目の授業・試験日程
及び履修登録等手続事項**

		日 程	届 出 事 項
前期 科目	授業	4月10日(月)～7月28日(金)	履修登録 4月中旬頃 *薬学専門実習1・2 *特別実習(本登録)
	定期試験	7月31日(月)～8月4日(金)	欠席届(欠席した場合) 試験期間中
	追再試験	定期試験終了後に実施予定 (掲示にて周知する) 9月中旬頃	追再試験願 定期試験終了後 8月中旬～9月上旬頃
後期 科目	授業	10月2日(月)～12月28日(木) 1月4日(木)～1月30日(火)	履修登録 10月上旬頃 *薬学専門実習3・4
	定期試験	1月31日(水)～2月6日(火)	欠席届(欠席した場合) 試験期間中
	追再試験	定期試験終了後に実施予定 (掲示にて周知する) 3月中旬頃	追再試験願 定期試験終了後 3月上旬頃

- 注 1) 日程の詳細については、掲示等に注意すること。
- 2) 履修登録をしていない科目は定期試験を受験できない。
追再試験願及び欠席届を提出していない科目は追再試験を受験できない。

学 生 生 活

◆連絡方法について◆

学生のみなさんに対する種々の連絡・伝達事項は、基本的に薬学部事務室前掲示板による掲示で行います。この掲示により、修学、課外教育、福利厚生等、学生生活に関する重要なことを連絡・伝達しますので、最低1日に1回は必ず掲示板の掲示を確認するようにしてください。見なかった場合には、不利益等を受けることがありますので、各自充分注意してください。

また、KULASISにより授業や試験に関する情報等のお知らせや、学生の呼び出し連絡等も行っていきます。

電話による問い合わせには、緊急の場合を除き原則として応じませんので、直接教務掛窓口に尋ねてください。

† 窓口取扱時間 : (月) ~ (金) 9:00~17:00

※ただし、授業休止期間は、9:00~12:00 13:00~17:00

◆学生証について◆

学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯してください。なお、薬学部建物内では、防犯のため、配付したネームホルダーに学生証を入れて着用してください。試験時や、諸証明書等の交付時には学生証で身分等を確認するので提示してください。他人に貸与または譲渡してはなりません。

この学生証は附属図書館（中央図書館等）や学術情報メディアセンターの利用証も兼ね、各施設への入退館認証や証明書自動発行機にも利用できます。また、4回生で分野に配属されると、薬学部建物への時間外入館が可能になります。

また、京大生協組合員証を兼ねており、組合員は電子マネーが利用できます。

学生割引証や通学証明書によって乗車券・通学定期乗車券を購入、使用するときも、交通機関係員の要求があれば提示してください。

①紛失・盗難・破損等したとき

紛失・盗難・破損等の場合は、教務掛へ再交付申請をしてください。

なお、紛失・盗難の場合は、警察の届出受理番号が必要となります。第三者による悪用を防止するためにも、直ちに警察へ届け出て、届出受理番号を確認しておいてください。

また、紛失・盗難・破損時等の再交付は有料となりますので、予め京大生協で「学生証再発行クーポン券」を購入のうえ、学生証再交付願に貼付し、教務掛に提出してください。

同時に、京大生協組合員の方は直ちに生協に連絡し、電子マネー機能を停止してください。

②磁気ストライプの磁気異常時

教育推進・学生支援部教務企画課で再書き込みを行います。（無料）

ただし、磁気ストライプが破損している場合は有料での再交付となります。

③初期不良時等

ICチップの初期不良並びに正常な利用における不具合発生時は、交付日から起算して2か月以内に申し出た場合に限り、無償で再交付します。

④卒業・修了・退学等したとき

京大生協組合員の方は、まず生協の窓口にて脱会処理等を行い、電子マネーを停止してください。

3月卒業・修了者で4月以降も引き続き本学の学生（正規生）として在籍する場合、大学生協組合員の継続手続きは、新学生証と旧学生証の両方を京大生協の窓口を持っていき、電子マネー機能の切替を行ってください。詳細は京大生協にお問い合わせください。

⑤有効期限を過ぎて在籍するとき

教務掛にて所定の手続きを取ってください。詳細については掲示等によりお知らせします。

⑥英文学生証が必要なとき

英文学生証は、学生の海外渡航に伴い、渡航先国において本学の学生であることを証明するため、希望する学部学生及び大学院学生を対象に発行します。

希望者は、申し込みの際に、貼付する写真（無帽正面上半身、無背景、縦3cm×横2.4cm、3ヵ月以内に撮影したもの、裏面に氏名を記入。）を持参の上、教務掛へ願い出てください。

◆学割証・各種証明書の交付について◆

主な証明書類は、学内 15 箇所に設置された自動発行機により交付しています。それ以外の証明書については、教務掛窓口に備え付けの証明書発行願に必要事項を記入して、発行希望日の 2 日以上前までに申し込んでください。ただし、その他特別な証明書に関しては、時間を要することがありますので、窓口で早めに確認してください。

(化学研究所に配属の学生については、学内便またはファックスでの申し込み、学内便での送達も可能とします。)

①学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の使用

学割証は、学生の修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的としているため、原則として次の目的を持って旅行をする必要がある場合の使用に限られています。

- (1) 休暇、所用による帰省
- (2) 正課の教育活動
- (3) 正課外の教育活動
- (4) 就職または進学のための受験等
- (5) 見学または行事への参加
- (6) 傷病の治療
- (7) 保護者の旅行への随行

・発行方法

学割証は証明書自動発行機により交付しています。（発行日から 3 ヶ月間有効）

・年間割当枚数

年間割当枚数は 1 人 15 枚までとなっています。

各自計画を立てて（全行程を一枚の学割証で 購入する等）使用し、やむを得ず割当枚数を超える必要が生じた場合は教務掛に申し出てください。

②通学証明書について

証明書自動発行機により交付しています。通学証明書には現住所・通学キャンパス等が証明されています。現住所を変更する場合は KULASIS から申請してください。申請後は、教務担当での承認を必要とします。変更内容は、承認の翌日（土・日・祝日除く）に証明書自動発行機へ反映されます。通学キャンパスに変更や間違いがあった場合には、速やかに教務掛へ申し出てください。

なお、申し出のあった変更は翌稼働日以降に反映されます。

・不正購入の禁止について

区間を偽って購入したり、通学以外の目的（サークル活動・アルバイト通勤など）で購入することは不正購入となります。不正購入はいかなる場合であっても許されません。本学学生の通学定期乗車券の販売が制限される場合がありますので、絶対に不正購入はしないでください。

・実習用定期乗車券の購入について

実習・研究等で、宇治または桂キャンパス、実習薬局への通学定期券を必要とする場合は、窓口まで申し出てください。鉄道会社等交通機関への申請手続きが必要なため、発行までに約 2 週間程度かかります。

③証明書自動発行機について

証明書自動発行機により証明書の交付を受けようとする場合は、学生証の認証とパスワードの入力が必要です。音声ガイダンスと画面の表示に従って画面タッチにより操作してください。パスワードについては、学生証交付時に通知します。パスワードは必ず定期的に変更し、忘れないよう管理してください。忘れた場合には、学術情報メディアセンター（南館 1 階）で学生証を提示のうえ再交付を受けてください。

○証明書自動発行機により交付できる証明書の種類（*の証明書は英文での発行も可）

学部学生	在学証明書*、学割証、卒業（見込）証明書*、健康診断証明書、 学業成績証明書*、学業成績及び卒業（見込）証明書
修士課程学生	在学証明書*、学割証、修了（見込）証明書*、健康診断証明書、

	学業成績証明書*、学業成績及び修了（見込）証明書
博士後期課程学生	在学証明書*、学割証、修了（見込）証明書*、健康診断証明書、学業成績証明書*、学業成績及び修了（見込）証明書
研究生・特別研究学生	在籍証明書*、健康診断証明書
科目等履修生 特別聴講学生	在籍証明書*、学業成績証明書、健康診断証明書

- ※1. 卒業見込、修了見込証明書については、最終学年時で一定の条件を満たした場合に可能です。
 2. 在学中の学生は、過去本学に在籍のあった学部等の証明書の発行も可能です。（他学部等の場合は、発行可能な証明書が異なる場合があります。）
 3. 薬学部設置の発行機稼働時間： 平日（月～金）8：30～18：00
 4. 自動発行機は保守等により停止する場合がありますので掲示等に注意してください。
 5. 成績証明書などで厳封が必要な場合や、自動発行された証明書に不備や疑問点等がある場合には、教務掛に申し出てください。

◆ 修学上の願出・届出等について ◆

①休学する場合

疾病その他の事由により3ヶ月以上休学する場合、既に休学している場合で休学期間を延長する場合は、「休学（延長願）」の提出が必要です。休学を開始しようとする日の2週間前までに教務掛まで提出してください。様式は教務掛に準備してあります。また、「休学（延長願）」には指導教員（グループ担任）の承認印が必要です。

「休学願」の提出が遅延すると希望する日から休学ができず、授業料納付が必要になる等で不利益が生じることがありますのでご注意ください。

なお、疾病による休学の場合には医師による「診断書」の提出が必要です。

②復学する場合

休学期間の途中で復学しようとする場合には「復学届」の提出が必要です。復学しようとする日の2週間前までに教務掛まで提出してください。様式は教務掛に準備してあります。

また、疾病の治癒につき復学しようとする場合は、「京都大学復学診断書」を添えて願い出る必要があります。

③退学する場合

退学する日の2週間前までに「退学願」を教務掛まで提出してください。様式は教務掛に準備してあります。また、「退学願」には指導教員（グループ担任）の承認印が必要です。

「退学願」の提出が遅延すると希望する日から退学ができず、授業料納付が必要になる等で不利益が生じることがありますのでご注意ください。

④海外渡航する場合

勉学・旅行その他の事由により海外に行く場合は、薬学部・薬学研究科ホームページから「海外渡航届」を提出してください。外国人留学生が帰省等で一時帰国する場合も提出してください。

また、留学、学会発表、語学留学、研修等のため海外渡航する場合、原則として「学研災付帯海外旅行保険」（付帯海学）へ加入してください。

薬学部・薬学研究科ホームページ> 在学生・卒業生の方へ> 在学生の方へ>海外渡航届> ●海外渡航届の申請
<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/students-alumni/students/overseas-travel/nortification-form/HOME>>在学生・卒業生の方へ>在学生の方へ>海外渡航届>●学研災付帯海外留学保険について（学内のみ）
<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/students-alumni/students/overseas-travel/travel-insurance/>

⑤改姓（名）した場合

改姓（名）をした場合は、住民票記載事項証明書を添えて「改姓・改名届」を教務掛まで提出

してください。様式は教務掛に準備してあります。

また、改姓をしたがそのまま旧姓を使用したい場合はその旨教務掛にお申し出ください。

なお、改姓（名）をした場合は学生証を無料で再発行できます。希望される場合は「学生証再交付願」を教務掛まで提出してください。様式は教務掛に準備してあります。

⑥住所変更をした場合

本人及び保護者等住所に変更がある場合は、速やかに KULASIS「登録情報」の「住所変更/授業料関係書類送付先住所の変更手続き」より申請してください。

⑦学内団体を結成する場合

本学学内団体規程に基づきます。詳細は教務掛までお問い合わせください。

⑧学内団体を更新する場合

本学学内団体規程の基づき、毎年5月中旬までに届け出が必要です。詳細は教務掛までお問い合わせください。

◆経済生活について◆

学業成績が優秀で、経済的に困窮している学生には、独立行政法人日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間育英事業の各種奨学金、授業料納付免除（授業料徴収猶予・分納を含む）等の制度が設けられています。詳細については、KULASIS 及び掲示等によりお知らせします。

◆健康管理について◆

1) 定期健康診断

学生の健康管理のため、4月に健康診断が実施されます。日時等については、掲示等によりお知らせしますので、注意事項を守って必ず受検してください。受検しないと本学学生健康診断規程に定められているように、当該年度に行われる試験を受けることができないばかりでなく、奨学金受給用健康診断書（証明書）の発行など、様々な事柄に支障を来すことになります。

2) 特別健康診断

理科系学生に対する特別健康診断として、毎年秋頃に「大学院学生の化学薬品取扱者に対する健康診断」が実施されます。詳細については、掲示等により通知します。

◆学生が加入しなければならない保険について◆

京都大学では、日本人学生については「学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び「学研災付帯賠償責任保険（学研賠）」への加入を、外国人留学生については「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び生協の「学生賠償責任保険」への加入を原則として必須としています。

学研災は学生の教育・研究活動中、課外活動中、通学中の事故により被った傷害に適用される傷害保険制度です。実験・実習、フィールドワーク等の科目の履修にあたってはこれらの加入が必要であり、特に薬局実務実習（薬学科）の実施にあたっては、受入先がこれらの保険の加入を求めていますので、必ず加入してください。

詳細については、教育推進・学生支援部厚生課厚生掛にお問い合わせください。

◆通学について◆

1) 学生は、通学その他の目的で自動車により構内に入構することはできません。

ただし、研究科長が特に必要があると認めた学生には、申請に基づき「入構・駐車許可証」を交付します。この申請の手続き等についての詳細は、薬学研究科総務掛に照会してください。

2) 自転車・バイクは、所定の場所に駐輪してください。

◆物品の貸出について◆

プロジェクター等の機器を借用したい場合は、窓口で所定の手続きを行ってください。

◆学生用ロッカールームについて◆

実習時の授業中における着替え・荷物の保管のため、薬科学科の3回生・薬学科の3～4回生の学生各人にロッカーを貸与し、自主的に管理・使用できるようにしています。

ロッカーの使用にあたっては、火災・盗難に注意し、また、常に整理・整頓に心掛け、清潔に保つよう心がけてください。また、電気とエアコンの付けっぱなしが多くみられます。使用後は、電気とエアコンのスイッチを必ず消したことを確認してから退室するようにしてください。

※ロッカーキーの返却について

薬科学科の方は3回生の年度末・薬学科の方は4回生の年度末には、各自で使用ロッカーを清掃し、必ず教務掛へロッカーキーを返却してください。紛失の際は、実費負担で弁償させていただきます。

◆遺失物・拾得物について◆

所持品等を紛失・置き忘れたり、また、拾得した場合は、速やかに届け出てください。拾得物の届け出があれば、教務掛事務室前ロッカーに保管していますので、心当たりのある人は窓口に申し出てください。

※落とし物が非常に多いので、所持品には氏名を書くなど、充分注意してください。

一定の保管期間が過ぎましたら処分しますので、ご了承ください。

◆受験心得について◆

試験時における受験心得については、ガイダンス又は掲示等にて説明します。

◆履修登録について◆

授業を履修しようとする場合は、前期・通年科目は4月上旬～中旬に、後期科目は9月下旬～10月中旬に、KULASISで履修登録が必要です。手続き等の詳細は別途掲示します。

履修登録作業を行わないと授業に出席しても単位が認定されず、進級・卒業に多大な影響を及ぼします。自己責任において必ず期間内に登録を完了してください。

◆成績の確認・異議申立について◆

前期科目は8月下旬に、後期及び通年科目は2月下旬に、KULASISで成績が確認できます。また、成績確認期間において、当該期の採点結果について、次の場合に限り異議を申し立てることができます。（手続等の詳細は別途掲示します。）

- ①採点の誤記入等、明らかに担当教員の誤りと思われるもの
- ②シラバス等により周知している成績評価の方法等から、明らかに疑義があるもの

◆成績評価について◆

成績表には、各科目とも素点（100点満点評価）または合否を表示します。成績証明書には合格点以上の科目について素点を評語に変換し、表示します。素点から評語への変換は以下の表に基づき、おこないます。

<平成26年以前入学者の成績評価>

素点	評語	英字評語
90～100	秀	S
80～89	優	A
70～79	良	B
60～69	可	C
0～59	不合格	D

<平成27年以降入学者の成績評価>

素点	評語・英字評語
96～100	A+
85～95	A
75～84	B
65～74	C
60～64	D
0～59	F

◆京都大学学士課程におけるGPA制度の導入について◆

京都大学では、学生の自律的な学修の促進及び学生に対する学修指導等に活用することを目的として、平成28年度以降に入学した学生を対象としたカリキュラムが適用される学部生を対象にGPA制度を導入しています。

(1) 成績評価とGPの対応

成績表は下表に基づきGPに変換します。

評語	A+	A	B	C	D	F
GP	4.3	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

(2) GPAに算入する科目

薬学部においては、成績証明書に6段階評価(A+～F)が付される科目(他学部・教職科目を除く)をGPAに算入します。

また、同一科目を複数回履修した場合、薬学部においては正規単位のみGPAに算入します。ただし、当該科目に正規単位が存在しない場合(すべて不合格だった場合)は、最初に履修した科目の成績(不合格:GP=0)をGPAに算入します。

(3) GPAの種別

本学在学中の全期間における学修の成果を示す指標として「累積GPA」を、当該学期における学修成果を示す指標として「学期GPA」を算出します。

(GPAは小数点第二位まで表示。小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入する。)

$$\boxed{\text{累積 GPA}} = \frac{\text{(在学全期間においてGPA算入科目のうち履修登録した科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{在学全期間においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\boxed{\text{学期 GPA}} = \frac{\text{(当該学期においてGPA算入科目のうち履修登録科目した科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{当該学期においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

(4) GPA の表示

成績表には、不合格となった科目も含めた全ての履修単位に係る成績、「学期 GPA」及「累積 GPA」を記載します。

成績証明書には、修得した科目の成績のみを記載し、原則として GPA は記載しません。ただし、特に必要がある場合に限り、累積 GPA ならびに在学全期間において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数を記載した成績証明書を学生の所属学部教務担当窓口において発行します。(証明書自動発行機では発行されません。)

◆京都大学学士課程における履修取消制度の導入について◆

京都大学では、平成 28 年度学部入学生を対象に GPA 制度を導入することに併せて、学生の申請により学期の途中に科目の履修登録を取り消す「履修取消制度」を平成 28 年度より、全ての学部生を対象に導入しています。

(1) 取消手続きについて

原則として、履修取消期間中に、KULASIS において履修取消を申請します。

(2) 履修取消期間

全学統一で下記のとおり履修取消期間を定めます。詳細な期間については年度ごとにお知らせします。

(3) 履修取消を認めない科目

科目の開講部局の定めにより、履修取消を認めない科目がありますので、各学部の教務担当窓口にお問い合わせください。薬学部においては、薬学専門実習及び 4 回生以上配当科目(特別実習含)は履修取消を認めません。

(4) 履修取消の特例

病気・事故等により長期間にわたって授業に出席できないなどのやむを得ない事由がある場合に限り、特例として履修取消を認める場合があります。詳しくは所属学部または科目の開講部局の教務担当窓口にお問い合わせください。

(5) 不受験科目の取扱い

成績判定時点で履修登録されている全ての科目を成績評価の対象とします。

すなわち、受験しなかった試験または提出しなかった課題等に対して最低評価を与えたうえで、シラバスに記載された成績評価基準に従って成績評価をおこないます。

※例：シラバスの成績評価方法・観点及び達成度に「小テスト 40 点満点、レポート 20 点満点、期末試験 40 点満点」と記載されている科目において、期末試験を受験しなかった学生の成績は、期末試験 0 点とした上で評価する。

◆気象警報発令時及び公共交通機関不通時等の薬学研究科・薬学部に係る授業・試験の取扱いについて◆

気象警報が発令された場合又は公共交通機関が不通の場合、学生の事故防止のため、薬学研究科・薬学部の授業・試験を次のとおり取り扱います。

1. 授業の休止、試験の延期

(1) 下記①②③のいずれかに該当する場合は、授業を休止し、又は試験を延期する。

- ① 京都市または京都市を含む地域に特別警報、暴風警報が発令された場合
- ② 次の(イ)、(ロ)のいずれかに該当する場合

(イ) 京都市営バスが全面的に不通の場合

(ロ) JR西日本(京都発着の在来線)、阪急電車(河原町～梅田間)、京阪電車(出町柳～淀屋橋または中之島間)、近鉄電車(京都～西大寺間)のうち、いずれか3以上の交通機関が全面的又は部分的に不通の場合

③ 薬学研究科長・薬学部長の判断による場合

(2) 授業・試験開始後に上記①②③のいずれかの事態が生じた場合は、授業を休止し、又は試験を延期する。

2. 特別警報、暴風警報の解除、公共交通機関の運行再開に伴う授業・試験の実施

特別警報、暴風警報が解除された場合、又は公共交通機関の運行が再開された場合は、以下の基準により授業・試験を実施する。

(1) 午前 6時30分までに解除・運行再開の場合 1時限から実施

(2) 午前10時30分までに解除・運行再開の場合 3時限から実施

3. 特別警報、暴風警報の発令・解除、公共交通機関の運行の確認・周知

(1) 特別警報、暴風警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、インターネット・テレビ・ラジオ等の報道機関の報道による。

(2) 1時限開始後に上記1(1)の事態が生じた場合は、掲示等により周知する。

附 記

この取扱いは、平成19年10月1日から実施する。

◆建物管理について◆

1) 薬学部の平日(月曜日～金曜日)の開館・閉館の時間は、次のとおりです。

なお、特別実習のため分野に配属された学生及び大学院生等については、下記時間外や休日等の入館が出来るようになります。詳細については教務掛に照会してください。

・ 開 館 8時00分

・ 閉 館 18時00分

2) 土曜、日曜・祝日、本学創立記念日(6/18)、年末・年始(12/29～1/3)及び夏季一斉休業日(8月第3週の月曜日・火曜日及び水曜日)は閉館しています。

また、臨時で閉館する場合にはあらかじめお知らせします。

3) 薬学部では、1年を通して省エネを推進しています。教室、ロッカールームを最後に出る際は、必ず消灯しエアコンを切ってください。

4) 講義室、演習室での飲食・喫煙を禁じます。

◆薬学研究科サテライトの利用◆

1. 利用資格

(1) 原則として、薬学部、薬学研究科の学生に限ります。

2. 開室時間

(1) 平日の8:30～19:00の間、使用可能です。

(2) 授業や実習での利用時間帯は関係者および受講生以外は使用できません。

(3) 停電や工事などで臨時に閉室する事があります。

3. 遵守事項

(1) 利用にあたっては京都大学情報環境機構情報教育支援サービス利用規程および利用心得の各事項を遵守し、管理者、授業担当者の指示に従ってください。

(2) サテライト内での飲食を禁じます。

(3) サテライトに備え付けの機器類は持ち出せません。

(4) 利用規程や管理者の指示に従わない場合には利用の一時停止の措置をとる場合があります。

- す。
(5) プリンタ用紙は常備のものを用いてください。

4. 利用上の注意

- (1) 端末使用後はシャットダウン処理を行って、電源を切ってください。ただし、直後に引き続き使用する人がいる場合はその必要はありません。
- (2) いたずらなどの防止のため、一時退室する場合にも必ずログオフをしてください。
- (3) サテライトを最後に退室する場合には部屋の照明を必ず消してください。
- (4) プリンタ用紙の補充、機器の故障等は薬学研究科教務掛まで連絡してください。

◆自習室の利用◆

1. 利用資格

- (1) 原則として、薬学部、薬学研究科の学生に限ります。

2. 場所

- (1) 23講義室を自習室として使用可能です。

3. 開室時間

- (1) 平日の8:30~19:00の間、使用可能です。
- (2) 授業や実習での利用時間帯は関係者及び受講生以外は使用できません。
- (3) 停電や工事などで臨時に閉室することがあります。

◆薬学研究科・薬学部図書室 (京都大学大学院薬学研究科・薬学部図書室利用規則) ◆

1. 開室時間

平日 9:00~17:00

土曜、日曜、祝日、本学創立記念日(6.18)、夏季一斉休業日(8月第3週の月曜日、火曜日及び水曜日)、年末年始(12.28~1.4)は休室。

その他臨時に休室することがある。

2. 閲覧

京都大学在籍者は教職員、研究員、学生を問わず、図書館資料(図書室に所蔵する図書、雑誌及びその他の資料、以下「図書館資料」という)を自由に閲覧することができる。

学外者は入室に際して、所定の利用申請書に記入し、図書館資料を自由に閲覧することができる。

イ) 図書館資料のうち貴重資料は、所定の手続きを経て閲覧することができる。

ロ) 図書館資料のうち地下書庫に収蔵する資料は、所定の手続きを経て閲覧することができる。

ハ) 図書館資料のうち電子的資料は、許可された条件でネットワークを介して閲覧することができる。

3. 閲覧の制限

図書館資料のうち次の各号に掲げる場合において閲覧を制限することができる。

イ) 図書館資料に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号。以下、「情報公開法」という。)第5条第1号、第2号及び第4号イに掲げる情報が記録されていると認められる場合(当該情報が記録されている部分に限る。)

ロ) 図書館資料の全部又は一部を一定の期間公にしないことを条件に個人又は情報公開法第5条第2号に規定する法人等から寄贈又は寄託を受けている場合(当該期間が経過するまでの間に限る。)

ハ) 図書の原本を利用させることにより当該原本の破損若しくはその汚損を生じるおそれがある場合又は図書館において当該原本が現に使用されている場合。

4. 貸出

- イ) 貸出を希望するときは必ず所定の貸出手続きを行わなければならない。
 - ロ) 貸出の冊数及び期限は下記のとおりとする。
 - 図書 3冊 2週間
 - 雑誌 5冊 3日
 - ハ) 図書、雑誌の貸出は図書システム、もしくは所定の用紙に記入することにより行う。
- 二) 新着雑誌は到着日から一定期間を展示期間とし、その間の貸出は行わない。
- ホ) 学外者が貸出を希望するときは、薬学研究科教授の紹介(文書)の上、所定の借用票に記入することとし、2冊以内2週間以内とする。
 - ヘ) 禁のラベルを添付してある図書は貸出を行わない。
 - ト) 借用中の図書はいかなる場合でも転貸してはならない。
 - チ) 期限を超えて引き続き借用しようとするときは、改めて手続をしなければならない。ただし他に借用希望者があるときはその者を優先させる。
 - リ) 貸出の規則に違反したものは違反期間に応じて一定期間、図書、雑誌の貸出を停止する。

5. 事故

閲覧又は借用中の図書は丁寧に取り扱い、紛失又は汚損した時は直ちにその旨を詳記した書類を図書委員長に提出し、指示に従わなければならない。

6. 複写サービス

本図書室利用者の便宜をはかるため電子複写による複写サービスを行う。これについては複写規定に従う。

7. 相互貸借

本図書室に所蔵していない図書又は雑誌の閲覧及び複写を希望する場合には掛員に申し込み、図書掛から他館に依頼又は紹介する。ただし、この場合の費用は申込者の負担とする。

8. 閉室時の利用

ICカードにより次のものは利用することができる。

- イ) 薬学研究科・薬学部の教職員
 - ロ) 薬学研究科所属の大学院学生
 - ハ) 薬学部薬学科所属の5年次、6年次学生
- 二) 薬学研究科・薬学部において教育研究に従事する外国人研究者
- ホ) 薬学研究科・薬学部所属の研修員、研究生、受託研究員
 - ヘ) その他研究科長が特に必要と認めたもの

9. 個人情報の漏えいの防止のために必要な措置

図書室は、図書館資料に個人情報(生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの(他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。)をいう。)が記録されている場合には、当該個人情報の漏えいの防止のために次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

- イ) 書庫の施錠その他の物理的な接触の制限。
 - ロ) 図書館資料に記録されている個人情報に対する不正アクセス(不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成11年法律第128号)第3条第2項に規定する不正アクセスをいう。)を防止するために必要な措置。
 - ハ) 図書室の職員に対する教育・研修の実施。
- 二) その他当該個人情報の漏えいの防止のために必要な措置。

10. 図書館資料の目録及び利用規則

利用者の閲覧に供するため、図書館資料の目録及びこの規則を常時閲覧室に備え付けるものとする。

注意事項

- ・ 書庫内及び閲覧室での喫煙・飲食は厳禁とする。
- ・ 携帯電話はマナーモードとし、通話は室外でおこなうこと。
- ・ 図書室の座席を占有しないこと。
- ・ 資料は必ず貸出手続きを経てから室外に持ち出すこと。

◆薬学研究科廃棄物処理指針◆

1. 有機廃液

1.1 有機廃液は、京都大学環境科学センターの規定に基づいた条件で有機廃液処理業者に外部委託して焼却する。基準に適合する種類のもの（表Ⅰ）を、研究科内規定で指定する5つの分類区分（表Ⅱ）にわけて、10L ポリ容器（白色）に貯留する。

表Ⅰ

有機廃液の処理基準	
1	炭素、水素、酸素、窒素、硫黄、ハロゲンからなる有機化合物の廃液であること。
2	発熱量が 20000J/g 以上で自燃性を有するもの。
3	水分は 20%以下のもの。
4	ハロゲンが 15%以下、窒素 3%以下、硫黄 2%以下、沸点 50℃以下の成分が 5%以下のもの。
5	塩酸、硫酸、硝酸等の腐食性物質を含まないもの。
6	沈澱や懸濁粒子を含まない液体で、粘度が 20 センチポワズ以下であるもの。
7	それ自身で、又は混合によって爆発または発火するおそれのないもの。
8	著しい悪臭を持たないもの。

表Ⅱ

有機廃液（外部委託）の貯留区分		
1	有害廃液 (H0)	12 種類の有害物質（※）を含有する廃油
2	（一般）廃油 (00)	ポンプオイル、バスオイル、クロロホルム等 引火点が 70℃以上のもの
3	引火性廃油 (I0)	H0, 00 以外の廃油
4	有害廃希薄水溶液 (HAQ)	12 種類の有機物質を含有する希薄水溶液
5	（一般）廃希薄水溶液 (OAQ)	2 種類の有機物質を含有しない希薄水溶液

※ 12 種類の有害物質とは以下の物質を指します。

1. トリクロロエチレン
2. テトラクロロエチレン
3. ジクロロメタン
4. 四塩化炭素
5. 1,2-ジクロロエタン
6. 1,1-ジクロロエチレン
7. シス-1,2-ジクロロエチレン
8. 1,1,1-トリクロロエタン
9. 1,1,2-トリクロロエタン
10. ベンゼン
11. 1,3-ジクロロプロペン
12. 1,4-ジオキサン

1.2 エーテル、石油エーテルなどは低沸点で貯蔵は危険であり、またクロロホルムやジクロロメタンなどは焼却に多量の灯油を必要とするので、回収再利用につとめる。他の水溶性、非水溶性溶媒も回収再利用につとめる。

- 1.3 ジクロロメタンなどの含ハロゲン溶媒やベンゼンなどの特定有害物質は完全に回収して、排水に紛れ込まないように細心の注意を払う。これら溶媒を分液操作に使用した場合は、水相も完全に回収する。さらに、これら溶媒が付着した器具類の洗浄に際しては、これら溶媒を十分に除去した後に行なう。
- 1.4 放射性廃棄物はこの処理指針の対象外である。

2. 無機廃液及び固形廃棄物

2.1 水銀、カドミウム、クロム、鉛、銅、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等の重金属化合物の廃液ならびにフッ素およびヒ素の化合物の廃液は原則として、京都大学無機廃液処理装置(KMS)を利用して無害化処理をするため、次のように分別貯留する(表Ⅲ参照)。

- a) 水銀系廃液(記号Hg) 1. 無機水銀系溶液、2. 有機水銀系溶液に分別貯留する(有機水銀系では、特に塩化物の混入を避けること)。
- b) 重金属イオンを含むシアン系廃液(記号CN) 遊離シアン、シアン化物、シアン錯化合物を含むものは、常にアルカリ性に保ち貯留する。
なお、単純なシアン系廃液については2.4の方法に従い可能な限り原点処理を行う。
- c) リン酸系廃液(記号P) リン酸イオンを含む溶液(極力、重金属の混入を避けること)。
- d) フッ素系廃液(記号F) フッ素イオンを含む溶液(極力、重金属の混入を避けること)。
- e) 一般重金属廃液(記号M) 極力、有機物、リン酸、アンモニア、ケイ酸の混入を避け、1. 酸性溶液、2. アルカリ性溶液に分別貯留する。

表Ⅲ 無機廃液区分

記号	廃液系列	貯留区分	摘要	廃液容器及びカードの色
Hg	水銀系廃液	1. 無機水銀 2. 有機水銀	○金属水銀や固形のアマルガムなどを含まないこと。 ○有機水銀系では、特に塩化物の混入をさけること。	20 L ポリ容器 灰色
CN	シアン系廃液	3. シアン錯化合物 4. シアン化物	○常にアルカリ性に保ち、酸性廃液に混入しないこと。 ○可能な限り原点処理を行うこと。	20 L ポリ容器 灰色
P	リン酸系廃液	5. リン酸塩	○可能なかぎり重金属の混入をさけること。	20 L ポリ容器 灰色
F	フッ素系廃液	6. フッ素化合物	○可能なかぎり重金属の混入をさけること。	20 L ポリ容器 灰色
M	一般重金属系廃液	7. 一般重金属 8. 酸 9. アルカリ	○ベリリウム、オスミウム、タリウムその他健康障害を起こす金属の塩類を含まないこと。 ○カコジル酸の混入は避けること。 ○有機物、リン酸、珪酸、アンモニアの混入は、できるだけ避けること。	20 L ポリ容器 青色

(注) 無機廃液は、上記に記載の「貯留区分」1.~9.ごとに貯留し、複数の「廃液系列」に属する廃液の混入は、できるだけ避けること。やむをえず混合した廃液は、複合系廃液として取り扱い、灰色の廃液容器に貯留すること。

- 2.2 下記に該当する無機廃液については、KMSでの処理を行うに当たって特別の取扱いを要するので、無機廃液処理実行委員に相談されたい。
 - a) 処理の障害となる有機化合物を含むもの。
 - b) 沈殿、懸濁粒子を含むもの。
 - c) 危険、猛毒物質（ニッケルカルボニル、アルキルアルミニウム等）を含むもの。
 - d) それ自身又は混合によって、爆発又は発火するおそれのあるもの。
- 2.3 ベリリウム、セレン、タリウムおよびオスミウムの化合物の廃液は、KMSで処理しないので密閉して貯留するか、不溶性化合物に変えて保存する。
- 2.4 単純なシアン系廃液は炭酸ナトリウム溶液を加えてアルカリ性にした後、充分量の次亜塩素酸ナトリウム（NaClO）溶液（アンチホルミン）を加えて、一夜放置し、酸化分解した後（ヨードカリでんぷん紙を用いて、活性塩素が残っていることを確める。）水で希釈して廃棄する。また、重金属を含む溶液で、簡単に処理できる場合、上記のような処理を行った後、(2.1e)に従ってKMSを利用する。安定なシアン錯化合物で酸化分解が困難なものに対しては、環境科学センターの紫外線オゾン酸化装置を利用して分解する。
- 2.5 使用済の金属水銀は、一ヶ所に集め、水銀表面を水で被い密栓して貯留する。
- 2.6 強酸、強アルカリは中和した後、多量の水で希釈して流す。
- 2.7 一次電池・二次電池、蛍光管、その他の有害固形廃棄物は薬学研究科長・薬学部長が指定する場所に貯留保管する。
- 2.8 放射性廃棄物は、この処理指針の対象外である。

3. 実験排水

実験排水は各実験室に排水口（流し等）より薬学部排水管理施設（本館西側二階建ビル）に集められ、pH範囲5-9に調整されたのち、貯留槽を経て市下水道に放出される。本施設を正常に作動させ、市の水質基準（表IV参照）に抵触する排水の流出を防止するために、各実験者は次の事項を遵守しなければならない。

- 3.1 流しの排水口に固形物（タバコの吸殻、茶かす、紙、ビニール等）を直接流してはならない。これらの物質は、集水槽の揚水ポンプの目詰りによりモーターの焼付を引き起したり、モニター電極に付着してpH調節システムの誤った作動を誘発したりするので極めて危険である。
- 3.2 流しのトラップは毎日掃除し、付着した異物を除去しておく。
- 3.3 下記のものを含む排水を流してはならない。
 - a) 固形浮遊物
 - b) 有害物質、悪臭を放つ物質、またはそれらに変化する恐れのある物質
 - c) いちじりしく発泡する物質、及び沈殿を生じる恐れのある物質
 - d) 表IVに示す排水基準を厳守しなければならない。

表IV 本学に適用される排水基準

物質または項目		本部地区	
環境項目等 (15)	温度 (°C)	45*	
	水素イオン濃度 (pH)	5.9	
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	600	
	浮遊物質 (SS)	600	
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	鉱油類	5
		動植物油脂類	30
	窒素含有量	240	
	リン含有量	32	
	沃素消費量	220*	
	フェノール類	1	
	銅及びその化合物	3	
	亜鉛及びその化合物	2	
	鉄及びその化合物 (溶解性)	10	
	マンガン及びその化合物 (溶解性)	10	

	クロム及びその化合物	2	
	ニッケル含有量	2*	
有	カドミウム及びその化合物	0.03	
	シアン化合物	0.5	
	有機燐化合物	0.5	
	鉛及びその化合物	0.1	
	六価クロム化合物	0.25	
	砒素及びその化合物	0.1	
	水銀及び有機水銀その他の水銀化合物	0.005	
	アルキル水銀化合物	検出されないこと	
	ポリ塩化ビフェニル	0.003	
	害	トリクロロエチレン	0.1
テトラクロロエチレン		0.1	
ジクロロメタン		0.2	
四塩化炭素		0.02	
物	1,2-ジクロロエタン	0.04	
	1,1-ジクロロエチレン	1	
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4	
	1,1,1-トリクロロエタン	3	
	1,1,2-トリクロロエタン	0.06	
質	1,3-ジクロロプロペン	0.02	
	チウラム	0.06	
	シマジン	0.03	
	チオベンカルブ	0.2	
	(28)	ベンゼン	0.1
		セレン及びその化合物	0.1
		ほう素及びその化合物	10
ふっ素及びその化合物		8	
1,4-ジオキサン	0.5以下		
ダイオキシン類	10*		

* …除害施設の設置が必要な水質基準である。

備考：単位は、温度、水素イオン濃度、ダイオキシン類以外の項目は mg/L です。温度は℃、ダイオキシン類は pg-TEQ/L です。

京都市上下水道局ホームページ

(<http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000115114.html>) より

◆安全管理について◆

薬学部および薬学研究科においては、教育・研究の必要上、種々の実験が行われるので、それに伴う危険（火災、爆発、外傷、火傷、放射線障害、中毒、感染等）を未然に防ぐ注意が肝要である。そのためには、危険物の取り扱いに習熟し、安全規定を遵守しつつ、細心の注意を払って実験に臨まなければならない。本学部においては、そのために安全委員会を設け、安全規定を定めているが、それに加えて平常からの危険防止に対する各人の自覚が強く望まれる。

なお、本学部の防火等の心得の抜粋を下記に記すので、参考にすること。

《薬学部防火心得》

◎実験に関する事項

- 1) 共通実験室（終夜実験室、学生実習期間外の実習室など）を使用する際にはその使用者の所属分野において使用上必要な注意をあたえる。使用者は火元責任者に届け出るとともにその室に備え付けの「使用簿」に氏名、所属分野、作業内容、使用時間を記入し、実験装置に所属分野名を表示し、実験内容によっては（特に危険な薬品を用いる場合等）必要な注意事項を表示する。実験終了時に安全を確認し、実験装置を撤去する（長時間あるいは恒常的に使用する装置を除く。）。
- 2) 高純度水製造装置（学生実習室）を使用するときには使用分野名を明示し、使用中随時に点検し、特に水圧低下に注意し、使用後安全を確認する。使用時間は午後8時までとする。
- 3) 火気を用いる実験はドラフト内で行う。

- 4) 火気使用者は常にその実験を監視し、また他に監視人を置かずにその場所を離れてはいけない。
- 5) 一時に大量の可燃性溶剤を用いて実験することはできるだけ避け、可能ならば少量ずつに分けて取り扱う。やむを得ず大量を取り扱う場合には、付近の可燃物を除去し、消火器を手元に置き二人以上で行う。
- 6) 引火性物質を取り扱う実験をする時にはその近傍で火気を使用してはいけない。
- 7) 引火性物質を加熱中にその実験装置に手をふれる必要のあるときには必ずガスバーナーの火を消してから行う。
- 8) 実験中に何か異常を感じた場合（例えば液が突沸気味であるとか、不明の臭気を感じるとか、沸とうする筈のものが沸とうしないとか）にはまずガスバーナーまたは電源を切り対策を考える。
- 9) 火気の使用を終わった時には確実にガス栓の閉鎖、スイッチの遮断を行い安全を確認し、さらに退室時に再確認を行う。
- 10) 実験に使用しない時にはガス栓を必ずしめる。
- 11) 実験室内に一人の場合には危険性のある実験をしてはいけない。休日、夜間居残り実験の場合には各分野においてその許可を与える際に実験内容により必要があれば二人以上で行うよう指示する。
- 12) 着衣に引火した場合には立ったままでいなくて床に転げるのがよい。

◎薬品、機器などの保管に関する事項

- 1) 発火性又は引火性薬品（金属ナトリウム、金属カリウム、金属マグネシウム、溶剤類、発煙硝酸、発煙硫酸、ピクリン酸など）はなるべく少量ずつ購入する。大量を購入した場合には、消防法の類別に従い危険物倉庫に格納し、実験室には必要最小限度しか置いてはいけない。
- 2) 実験室内に上記薬品を置く場合にはそれぞれの薬品の性質に応じて安全に保管し、かつその場所を表示する。
- 3) 劇・毒薬・向精神薬・麻薬に指定されている薬品、放射性物質、核燃料物質については、指定された方法に従い、指定された場所に保管・管理する。
- 4) 金属ナトリウム、接触還元用触媒など危険な物質を使用して実験した後はできるだけ速かに後処理を行う。
- 5) ガスまたは電気を熱源とする機器は不燃性の台または容器の上に置く。
- 6) 機器およびそのカバーなどで燃焼の際有害なガスを大量に発生するおそれのあるものは火気を使用する実験を行う場所からできるだけ遠いところに保管する。

◎火災発生時の処置に関する事項

- 1) 火災発生の際、現場の者は直ちにガスの元栓、電源を切り消火器その他を用いて消火に当る。
- 2) 火災を発見した者、あるいは付近の者は直ちに大声で火災発生の場所を報知する。
- 3) 火災発生の知らせを聞いた場合には直ちに実験を中止し、火気を消し、消火器をもって現場に急行する。
- 4) 消火栓よりの放水は防火委員の指示あるいは現場の者の判断により必要と認められた場合に行う。
- 5) 負傷者が生じた場合には医学部附属病院に手当を依頼する。
- 6) 火災の発生について、速やかに火元責任者へ情報を伝える。もしくは、その分野の教授あるいは他の教員、総務掛、学科主任、学部長などに連絡する。
- 7) 夜間火災が発生した場合には発見者は消防署に連絡し、発生現場の関係者、総務掛、学部長に連絡する。
- 8) 火災発生時の避難について、各分野で実情を考慮し、対策をたてておく。

◎その他

受動喫煙防止のため、構内は全面禁煙です。

◆就職について◆

学生の就職の相談に関しては、就職担当教員（教授1名）をおいています。

就職を希望する学生は、求人先より送付された資料（教務掛保管）や、本学キャリアサポートルーム利用による検討、あるいは特別実習のための配属分野の教授及び就職担当教員との相談などにより就職希望先を決定し、必要書類を整え就職希望先へ発送してください。

必要書類は求人先により異なりますが、履歴書、写真、健康診断書（京都大学健康科学センター発行のもの）などは要求されることが多いので、予め準備しておいてください。

◆薬剤師国家試験について◆

学校教育法が改正され（平成16年5月21日公布）、大学の薬学教育制度及び薬剤師国家試験制度が変わりました。この制度は、平成18年4月の入学生から適用になっています。

学校教育法の改正に伴い、薬剤師法も改正され（平成16年6月23日公布）、薬剤師国家試験を受けることができるのは、原則として、6年制学部・学科の卒業生とされています。

ただし、4年制の薬科学科（平成18年4月以降入学者）の学生については、平成29年度までの入学者に限り、大学を卒業した後、薬学関係の修士又は博士の課程を修了し、さらに6年制学部の卒業生に比べ不足している医療薬学系科目や実務実習等の単位を、一定期間内に6年制学科において追加で履修し、6年制学科の卒業生と同等であると厚生労働大臣が個別に認める場合にのみ、薬剤師国家試験を受験することができるとされています。

以下に、平成23年度から実施されている新しい薬剤師国家試験について説明します。

「薬剤師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事する者をいい、公衆衛生の向上および増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保することを任務とします。

薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格した者に対して与えられます。本学部卒業生及び卒業見込の者（薬学科）、薬科学科の学生も一定の要件を満たせば、試験に出願することができます（詳細は教務掛に問い合わせること）。

新たな薬剤師国家試験の出題区分、科目および出題数は以下のとおりです。

- ①必須問題：薬学の全領域のうち、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する出題区分
- ②一般問題：薬学の全領域のうち、医療の担い手である薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認する出題区分
 - (②-1) 薬学理論問題： 薬剤師に必要な知識を中心に、技能・態度を含む薬学の理論に基づいて、薬剤師が直面する一般的課題を解釈するための資質を確認する出題区分
 - (②-2) 薬学実践問題： 医療の実務において直面する一般的課題を解決するための基礎力、実践力及び総合力を確認する出題区分

科目	問題区分			出題数
	必須問題	一般問題		
		薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15問	30問	15問（複合①）	60問
衛生	10問	20問	10問（複合②）	40問
薬理	15問	15問	10問（組合せ①）	40問
薬剤	15問	15問	10問（組合せ②）	40問
病態・薬物治療	15問	15問	10問（組合せ③）	40問
法規・制度・倫理	10問	10問	10問（複合③）	30問
実務	10問	0問	20問 +30問	95問

			(組合せ①②③) + 35 問 (複合①②③)	
出題数	90 問	105 問	150 問	345 問

(注1) 「複合問題」は、①「実務」と「物理・化学・生物」(15問)、②「実務」と「衛生」(10問)、③「実務」と「法規・制度・倫理」(10問)において導入される。

(注2) 「組合せ問題」は、①「薬理」と「実務」(10問)、②「薬剤」と「実務」(10問)、③「病態・薬物治療」と「実務」(10問)において導入される。

なお、試験期日、試験地、試験科目等試験施行の詳細については、官報によって公告されます。

平成 28 年度の試験関係日程等(参考)

試験施行要領発表	8 月 26 日
出願期間	1 月 4 日～16 日
試験期日	2 月 25 日, 2 月 26 日
試験地	全国 9ヶ所
試験合格者発表	3 月 28 日

受験申請書類は大学で一括して厚生労働省に送付するので、所定期間内に薬学部教務掛で手続をしてください。

なお、受験申請書類は次のとおりです(予定)。

受験願書	用紙は教務掛で交付する。 受験手数料は、6,800 円分の収入印紙を受験願書に貼付し、 納入すること。
卒業(見込)証明書	※教務掛で作成する。
写 真	脱帽上半身像で出願前 6 カ月以内に撮影した写真(縦 6cm、 横 4cm)を貼付すること。(裏面に大学名、氏名を記入)
写真用台紙(受験票)	用紙は教務掛で交付する。

【注 意】

- 試験に合格した者には合格証書が授与されますが、それで直ちに薬剤師の免許を授与されたことにはなりません。薬剤師の免許を受けようとする者は所定の申請書類を住所地の都道府県知事を経て厚生労働大臣に提出しなければなりません。
関係書類は受験票交付時に教務掛から交付の予定です。

◆薬剤師（学士（薬学））に関係のある主な資格・業務一覧表◆（参考）

I 薬剤師でなければならない業務

業務または資格	根拠法（所管）	免許等	条件等
1. 調剤業務	薬剤師法 19 条（厚）		
2. 薬局の管理者	医薬品医療機器等法 7 条（厚）		
3. 一般販売業の管理者	医薬品医療機器等法 24 条（厚）		
4. 医薬品製造販売業の総括製造販売責任者	医薬品医療機器等法 17 条（厚）		
5. 医薬品製造業の管理者	医薬品医療機器等法 17 条（厚）		
6. 学校薬剤師	学校保健法 23 条（文）		
7. 保険薬剤師	健康保険法 64 条（厚）		

II 薬剤師であれば取得できる資格（業務）

業務または資格	根拠法（所管）	免許等	条件等
1. 医薬部外品、化粧品又は医療機器製造販売業の総括製造販売責任者	医薬品医療機器等法 17 条、施行規則 85 条（厚）		
2. 医薬部外品、化粧品又は医療機器製造所の責任技術者	医薬品医療機器等法 17 条、施行規則 91 条（厚）		
3. 放射線取扱主任者	放射性同位元素等による放射線障害の防止等に関する法律 34 条（文）		国又は都道府県の職員
4. 毒物劇物取扱責任者	毒物及び劇物取締法 8 条（厚）		
5. 薬事監視員	医薬品医療機器等法 76 条、施行令 68 条（厚）	知事免許	
6. 食品衛生管理者	食品衛生法 48 条（厚）		
7. 食品衛生監視員	食品衛生法 30 条、施行令 9 条厚		
8. 麻薬管理者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
9. 麻薬輸出業者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
10. 麻薬元卸売業者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
11. 麻薬卸売業者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
12. 向精神薬取扱責任者	麻薬及び向精神薬取締法 50 条の 20（厚）		
13. 麻薬取締官（員）	麻薬及び向精神薬取締法施行令 10 条（厚）		
14. 環境衛生指導員	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 20 条、施行規則 16 条（厚）		

III 薬剤師であればその資格取得に特別の考慮が払われる場合

業務または資格	根拠法（所管）	免許等	条件等
1. 作業環境測定士（第一種、第二種）	作業環境測定法 5 条、14 条、施行規則 17 条（厚）	名簿登録	講習
2. 公害防止管理者（大気二種）	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律 7 条、施行令 10 条、別表 3（経）		講習
3. 環境計量士（濃度関係）	計量法 122 条、施行規則 50 条、51 条（経）	経済産業大臣登録	
4. 労働衛生コンサルタント受験資格	労働安全衛生法 83 条、労働安全衛生コンサルタント規則 11 条（厚）	名簿登録	筆記試験科目一部免除

IV 学校教育法に基づく大学等で薬学の正規の課程を修めて卒業した者の資格においてなることのできる資格

(業務)

業務または資格	根拠法(所管)	免許等	条件等
1. 建築物環境衛生管理技術者	建築物における衛生的環境の確保に関する法律7条、規則6条(厚)	名簿登録、大臣免許	1年以上の実務経験 生理学検査及び採血に関する科目の履修が必要 4年以上の実務経験(但し講習を受ければ有資格者となる) 大学履修科目に応じて一定期間の実務経験を必要とする講習、一定期間の実務経験が必要 講習、実務経験
2. 臨床検査技師受験資格	臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律15条、施行令20条(厚)		
3. 水道技術管理者	水道法19条、施行令6条(厚)		
4. 配置販売業者	医薬品医療機器等法30条、施行令52条(厚)		
5. 医薬部外品、化粧品又は医療器具の製造所の責任技術者	医薬品医療機器等法17条、施行規則91条(厚)		
6. 一般廃棄物処理施設又は産業廃棄物処理施設の技術管理者	廃棄物の処理及び清掃に関する法律21条、規則17条(厚)		
7. 騒音関係、粉塵関係、振動関係の公害防止管理者	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律施行規則別表第一(経)		
8. 公害防止主任管理者	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律7条1項2号、施行令11条規則11条2項、別表第2(経)		
9. 向精神薬取扱責任者	麻薬及び向精神薬取締法50条の20、施行令6条(厚)		

注1) (厚)→厚生労働省、(文)→文部科学省、(農)→農林水産省、(経)→経済産業省

注2) この表は『薬事衛生六法 学生版 2008年版(薬事日報社)』より抜粋したものである。

資 料

分野の研究内容

●薬科学専攻

薬品創製化学講座

薬品合成化学

教授	高須清誠	生体機能性分子の設計と合成
助教	山岡庸介	効率的有機合成のための方法論の創出 小員環、中員環、スピロ環など特徴的分子構造の化学 低分子の動的構造の精密理解と制御

薬品分子化学

教授	竹本佳司	医薬品プロセス研究を指向した環境調和型有機分子触媒の設計
講師	塚野千尋	生合成を模した糖鎖修飾ペプチド合成法の開拓
助教	小林祐輔	元素特性を利用した高立体選択的な触媒反応の開発 生物活性天然有機化合物およびその類縁体の全合成と創薬展開 機能性複素環化合物の合成とバイオブローブとしての利用

薬品資源学

准教授	伊藤美千穂	薬用植物の多様性に関する研究 二次代謝機能発現に関する研究、特にテルペノイドとフェニルプロパノイド の生合成に関する遺伝子群の発現制御機構と遺伝子クローニング 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究 薬用植物の種苗生産と栽培に関する研究
-----	-------	---

薬品機能統御学講座

薬品機能解析学

教授	松崎勝巳	抗菌性ペプチドと膜との相互作用の解明と創薬への応用。アルツハイマー病発機
准教授	星野大	序の解明。タンパク質構造形成原理の解明。Gタンパク質共役型受容体の機能の解
講師	矢野義明	明と制御。タンパク質の構造解析。

構造生物薬学

教授	加藤博章	1) ATP Binding Cassette (ABC) トランスポーターの構造薬理学
准教授	中津亨	2) X線自由電子レーザーを用いたタンパク質結晶学
助教	山口知宏	3) X線結晶構造解析による生物発光の構造と機能の解明

薬品製剤設計学講座

製剤機能解析学

教授	石濱泰	プロテオミクス新規計測技術の開発
准教授	杉山直幸	ヒトプロテオーム一斉定量分析に基づく細胞機能解析 細胞内リン酸化ネットワークの解明 微量組織試料の大規模定量解析と臨床プロテオミクスへの展開 プロテオミクス技術を用いた分子標的創薬に関する研究

精密有機合成化学講座

精密有機合成化学

教授	川端猛夫	動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
准教授	古田巧	分子認識型触媒を用いる精密有機合成
助教	上田善弘	分子のキラリティーに基づく高次構造の構築 分子認識および超分子化学に関する研究 天然有機化合物の位置選択的全合成研究

生体分子薬学講座

生体分子認識学

教授	竹島	浩	興奮性細胞Ca ²⁺ シグナルに関する研究
准教授	柿澤	昌	中枢系情報伝達に関する研究
助教(特定)	市村	敦彦	

ヒトレトロウイルス学

客員教授	松岡	雅雄	1) ヒトレトロウイルス(ヒトT細胞白血病ウイルス1型、エイズウイルス)感染症の分子病態研究
講師	安永	純一朗	2) ヒトレトロウイルスの複製機構に関する研究
助教	志村	和也	3) ヒトレトロウイルスに対する治療法の開発
			4) ウイルス感染症の動物モデルの開発

分子ウイルス学

教授	小柳	義夫	1) ウイルスの感染メカニズムの解明
講師	佐藤	佳	2) レトロウイルス複製への細胞性因子関与における分子様式解析
			3) エイズウイルス感染による免疫機構破壊過程と発症メカニズムの解明
			4) 新規抗ウイルス療法の開発

感染防御学

教授	竹内	理	1) 炎症応答制御の分子機構に関する研究
助教	三野	享史	2) ウイルス、細菌感染に対する自然免疫機構の研究
助教(特定)	植畑	拓也	3) RNAを介した免疫制御に関する研究
			4) 自然免疫細胞による癌、代謝疾患制御の研究

免疫制御学

教授	生田	宏一	1) 免疫寛容・免疫応答・免疫記憶の制御
助教	原	崇裕	2) サイトカインレセプター発現の制御機構とその機能
助教	崔	広為	3) ステロイドと概日リズムによる免疫系の制御
			4) 免疫微小環境の可視化と局所機能ならびに慢性炎症疾患との関係

生体機能薬学講座

遺伝子薬学

講師	三宅	歩	生理活性ペプチドの作用機構とその調節機構の遺伝子レベルでの研究 遺伝子探索法による新規な生理活性ペプチドの探索とその生理的役割に関する研究 形態形成の分子機構に関する研究
----	----	---	---

生理活性制御学〔生命科学研究科高次生命科学専攻システム機能学分野〕

教授	井垣	達吏	1) 細胞競合の分子機構
准教授	大澤	志津江	2) 細胞間コミュニケーションを介した組織成長制御機構
助教	榎本	将人	3) がんの発生・進展機構

生体情報薬学講座

生体情報制御学

- | | | |
|-----|------|---|
| 教授 | 中山和久 | 1) 低分子量 GTPase による細胞内タンパク質輸送の調節機構に関する研究 |
| 准教授 | 申惠媛 | 2) 多様なエンドサイトーシス経路の調節機構に関する研究 |
| 助教 | 加藤洋平 | 3) 繊毛内タンパク質輸送と繊毛形成の調節機構に関する研究 |
| | | 4) 生体膜の非対称性の制御による細胞機能の調節機構に関する研究 |
-

神経機能制御学〔生命科学研究科高次生命科学専攻生体システム学分野〕

- | | | |
|-----|------|------------------------------------|
| 教授 | 根岸学 | 1) 神経細胞の形態を調節する低分子量 G 蛋白質の機能に関する研究 |
| 准教授 | 加藤裕教 | 2) 細胞運動における低分子量 G 蛋白質の機能に関する研究 |
-

生体機能化学講座

生体機能化学

- | | | |
|----|------|--|
| 教授 | 二木史朗 | 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製 |
| 講師 | 今西未来 | ペプチドを基盤とするバイオ高分子の細胞内導入法の開発とその原理 |
| 助教 | 河野健一 | 生体膜の構造変化を誘起する蛋白質・ペプチドの機能設計
人工転写調節蛋白質の設計と遺伝子発現制御 |
-

●薬学専攻

薬品動態制御学講座

薬品動態制御学講座

- | | | |
|----|-------|--|
| 教授 | 山下富義 | 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発 |
| 講師 | 樋口ゆり子 | ナノ製剤の物性/薬効/毒性相関の分子機構解明と評価技術の開発
ドラッグデリバリーシステム技術を活用した細胞製剤化に関する研究
ケモインフォマティクスに基づく薬物動態特性のインシリコ予測 |
-

薬品作用解析学

- | | | |
|-----|------|--|
| 准教授 | 久米利明 | 神経変性疾患の病態形成機構の解明およびその予防・治療薬開発に関する研究 |
| 助教 | 泉安彦 | ゼブラフィッシュを用いた脳疾患モデル動物の開発
ニコチン性アセチルコリン受容体に関する研究
食品に由来する神経保護物質の探索
ドパミンニューロンの生存および再生を制御する因子に関する研究 |
-

臨床薬学教育

- | | | |
|-----|-----|--|
| 准教授 | 米澤淳 | 医薬品の別作用・毒性の発現機序およびその治療に関する研究
抗体医薬の個別化療法に関する研究
薬物動態・薬効の速度論的解析と個別化投与設計に関する研究 |
|-----|-----|--|
-

病態機能解析学講座

病態機能分析学

准教授	小野正博	脳疾患、心疾患、がんでの生理・生化学機能変化をインビボ解析する分子イメージング法の開発と、それに基づく病態の仕組みおよび薬物作用の解明に関する研究
助教	渡邊裕之	病態の特性に基づく標的部位選択的移行、選択的活性化をおこす機能性画像診断・治療薬剤の創薬研究
		生理活性金属化合物の生体内作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学

教授	高倉喜信	遺伝子治療・DNA ワクチン療法の最適化を目指した核酸医薬品開発
助教	高橋有己	核酸ナノシステム・ハイドロゲルを基盤とする疾患治療システムの開発 Exosome を利用した疾患治療システムの開発 多機能細胞治療システムの開発

生体機能解析学

教授	金子周司	イオンチャネル・トランスポーターなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬、機能解析、薬効解析、安全性評価、病因論、ゲノム科学に関する研究
准教授	白川久志	
助教(特定)	永安一樹	痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機構に関する研究 薬物依存など可塑的脳機能変化の分子機構に関する研究

医療薬剤学講座

医療薬剤学

教授	松原和夫	医薬品の副作用・毒性の発現機序および、その治療に関する研究
准教授	中川貴之	分子標的型抗がん剤の薬効・副作用と血中濃度の相関に関する研究
講師	今井哲司	薬物トランスポーターの分子・細胞生物学的解析に関する研究
助教	大村友博	医薬品の有害反応に関する疫学的調査研究
助教	中川俊作	中枢および末梢神経障害の病態と治療薬に関する研究 疼痛の病態生理と鎮痛薬・緩和医療に関する研究

●医薬創成情報科学専攻

医薬創成情報科学講座

薬理ゲノミクス・ゲノム創薬科学

准教授	平澤明	1) オーフアンG蛋白質共役型受容体のゲノム機能科学に基づくリガンド探索、スクリーニング。 2) 脂肪酸受容体を標的とした代謝疾患に対する新たな薬物治療法の確立。 3) 網羅的発現解析技術とバイオインフォマティクスによる創薬基盤研究。 4) G蛋白質共役型受容体機能の分子レベルからの in vivo でのシミュレーション
-----	-----	--

ケモゲノミクス・薬品有機製造学

教授	大野浩章	1) 新規骨格化合物・ペプチド類の化学合成に関する新手法の開発と応用に関する研究
准教授	大石真也	2) 創薬テンプレートの構築を指向した新規変換反応の開発と応用に関する研究 3) 抗ウイルス剤・抗癌剤の分子設計と合成に関する研究

システムバイオロジー

教授	岡村均	1) 時間の生成と調律の仕組みを、細胞、組織、生体という多層レベルで解明する。
准教授	土居雅夫	2) 分子時計の異常による慢性疾患(高血圧、発癌、神経変性疾患)の発症機構を解明し、時間を基にした新しい病気の理解、その治療法を開発する。
講師(特定)	JeanMichelFustin	3) 再生、老化における生体リズムの分子機構を解明する。
助教	山口賀章	4) 生体リズムにおけるRNA修飾ワールドの解明 5) リガンド、受容体の解析による時間を調律する創薬研究

システムケモセラピー（制御分子学）

- | | | |
|-----|--------|---|
| 教授 | 掛谷 秀 昭 | 1) 多因子疾患（がん、心疾患、感染症、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究 |
| 准教授 | 服部 明 | |
| 助教 | 西村 慎 一 | 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学 |
| | | 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究、および、メディシナルケミストリー（創薬化学）研究 |
| | | 4) 有用物質生産・創製のための分子プローブ創製研究、および遺伝子工学的創製研究（コンビナトリアル合成研究等） |

統合ゲノミクス

- | | | |
|----|----------------------|-----------------------------------|
| 教授 | 緒方 博之 | 1) ウイルスのゲノム解析 |
| 助教 | Romain Blanc-Mathieu | 2) 微生物群集と環境の相互作用 |
| | | 3) 創薬と環境保全への応用を目指した化学・ゲノム・医薬知識の統合 |

分子設計情報

- | | | |
|----|-----------------|--|
| 教授 | 馬見塚 拓 | 創薬科学への情報科学技術の新展開による新しいバイオインフォマティクス、すなわち創薬情報科学（ファーマコインフォマティクス）の研究教育を推進する。特に創薬リード化合物の探索・最適化に重点を置き、従来型の創薬科学と情報科学の融合を担う。 |
| 助教 | Canh Hao Nguyen | |

●統合薬学教育開発センター

医薬品開発教育

- 1) 横断的統合型教育システムの開発
- 2) ナビゲーションシステムを利用した医薬開発教育システム

創薬科学教育

- 1) 参加型・体験型教育システムの開発
- 2) ナビゲーションシステムを利用した創薬科学教育システムの開発

実践臨床薬学

- | | | |
|--------|--------|--------------------------------------|
| 教授 | 山下 富 義 | 1) 臨床薬物動態のモデリング&シミュレーションに関する研究 |
| 講師(特定) | 津田 真 弘 | 2) 薬物動態・薬効変動の機構解明と個別化医療への応用 |
| | | 3) 臨床薬物治療情報のデータマイニングとそれに基づくリスクアセスメント |

情報科学教育

情報教育システムの開発

●寄附講座

ナノバイオ医薬創成科学

- | | | |
|--------|-------|---------------------------------|
| 客員教授 | 嶋田 裕 | 1) 最先端光学技術とバイオ技術を融合したナノレベル創薬研究 |
| 客員教授 | 清水 一治 | 2) DNA チップによる食道がんの培養細胞及び臨床検体の分析 |
| 客員教授 | 須藤 哲央 | 3) 病態関連遺伝子やタンパク質情報を活用した分子標的探索 |
| 講師(特定) | 武井 義則 | 4) 食道がん医薬の研究 |

薬学研究科関係教員

専攻	講座	分野	氏名	職名	学位	研究室所在	
薬科学	薬品創製化学	薬品合成化学	高 須 清 誠	教 授	博士(薬)	薬学研究科本館 4F	
			山 岡 庸 介	助 教	博士(薬)		
		薬品分子化学	竹 本 佳 司	教 授	薬学博士	薬学研究科本館 4F	
			塚 野 千 尋	講 師	博士(生命科学)		
			小 林 祐 輔	助 授	博士(薬)		
		薬品機能統御学	薬品機能解析学	伊 藤 美千穂	准教授	博士(薬)	薬学研究科本館4F
	松 崎 勝 巳			教 授	博士(薬)	薬学研究科新館 3F	
	星 野 大			准教授	博士(理)		
	構造生物薬学		矢 野 義 明	講 師	博士(薬)		薬学研究科本館 3F
			加 藤 博 章	教 授	農学博士		
			中 津 亨	准教授	博士(農)		
	製剤機能解析学		山 口 知 宏	助 教	博士(理)	薬学研究科本館 3F	
			石 濱 泰	教 授	博士(薬)		
			杉 山 直 幸 (兼)	准教授	博士(理)		
			川 端 猛 夫	教 授	薬学博士		化学研究所
	古 田 巧	准教授	博士(薬)				
	上 田 善 弘	助 教	博士(薬)				
	生体分子薬学	生体分子認識学	竹 島 浩	教 授	博士(医)	薬学研究科本館 2F	
			柿 澤 昌	准教授	博士(理)		
			市 村 敦 彦	助 教 (特定)	博士(薬科学)		
		ヒトレトロウイルス学	松 岡 雅 雄	客員教授	医学博士	ウイルス研究所	
			安 永 純一朗	講 師	博士(医)		
			志 村 和 也	助 教	博士(医)		
		分子ウイルス学	小 柳 義 夫	教 授	博士(医)	ウイルス研究所	
			佐 藤 佳	講 師	博士(医)		
		感染防御学	竹 内 理	教 授	博士(医)	ウイルス研究所	
			三 野 亨 史	助 教	博士(工)		
			植 畑 拓 也	助 教 (特定)	博士(医)		
		免疫制御学	生 田 宏 一	教 授	医学博士	ウイルス研究所	
			原 崇 裕	助 教	博士(生命科学)		
			崔 广 為	助 教	博士(医科学)		
		生体機能薬学	遺伝子薬学	三 宅 步	講 師	博士(薬)	薬学研究科本館 2F
				井 垣 達 吏	教 授	博士(医)	
生理活性制御学	大 澤 志津江		准教授	博士(薬)	生命科学研究所 (薬学研究科本館 3F)		
	榎 本 将 人		助 教	博士(医)			
生体情報薬学	生体情報制御学	中 山 和 久	教 授	医学博士	薬学研究科新館 4F		
		申 惠 媛	准教授	博士(理)			
		加 藤 洋 平	助 教	博士(薬)			
	神経機能制御学	根 岸 学	教 授	薬学博士	生命科学研究所 (医学・生命科学 総合研究棟 1F)		
		加 藤 裕 教	准教授	博士(薬)			
生体機能化学	生体機能化学	二 木 史 朗	教 授	薬学博士	化学研究所		
		今 西 未 来	講 師	博士(薬)			
		河 野 健 一	助 教	博士(薬)			
薬学	薬品動態医療薬学	薬品動態制御学	山 下 富 義 (兼)	教 授	博士(薬)	薬学研究科新館 2F	
			樋 口 ゆり子	講 師	博士(薬)		
		薬品作用解析学	久 米 利 明	准教授	博士(薬)	薬学研究科本館 1F	
			泉 安 彦	助 教	博士(薬)		
		臨床薬学教育	米 澤 淳	准教授	博士(薬)	薬学研究科新館 1F	
	病態機能解析学	病態機能分析学	小 野 正 博	准教授	博士(薬)	薬学研究科新館 4F	
			渡 邊 裕 之	助 教	博士(薬)		
		病態情報薬学	高 倉 喜 信	教 授	薬学博士	薬学研究科新館 2F	
			高 橋 有 己	助 教	博士(薬)		
		生体機能解析学	金 子 周 司	教 授	薬学博士	薬学研究科本館 2F	
			白 川 久 志	准教授	博士(薬)		
	永 安 一 樹		助 教 (特定)	博士(薬)			
	医療薬剤学	医療薬剤学	松 原 和 夫	教 授	医学博士	医学部附属病院 (旧産科棟 2F)	
			中 川 貴 之	准教授	博士(薬)		
			今 井 哲 司	講 師	博士(薬)		
			大 村 友 博	助 教	博士(薬)		
中 川 俊 作			助 教	博士(薬)			

専攻	講座	分野	氏名	職名	学位	研究室所在
医薬創成情報科学	医薬創成情報科学	薬理ゲノミクス・創薬科学	平澤 明	准教授	博士(医)	薬学研究科新館 3F
		ケモゲノミクス・ 薬品有機製造学	大野 浩章	教授	博士(薬)	薬学研究科新館 5F
			大石 真也	准教授	博士(薬)	
		システムバイオロジー	岡村 均	教授	医学博士	薬学研究科別館 4F
			土居 雅夫	准教授	博士(理)	
			Jean Michel Fustin	講師 (特定)	博士(理)	
			山口 賀章	助教	博士(生命科学)	
		システムケモセラピー (制御分子学)	掛谷 秀昭	教授	博士(工)	薬学研究科新館 5F
			服部 明	准教授	博士(薬)	
			西村 慎一	助教	博士(農)	
		統合ゲノミクス	緒方 博之	教授	博士(理)	化学研究所
			Romain Blanc-Mathieu	助教	※	バイオインフォマティクスセンター
		分子設計情報	馬見塚 拓	教授	博士(理)	化学研究所
			Canh Hao Nguyen	助教	博士(知識科学)	バイオインフォマティクスセンター
統合薬学教育開発 センター	医薬品開発教育	高須 清誠 (兼)	教授	博士(薬)	薬学研究科	
		久米 利明 (兼)	准教授	博士(薬)		
	創薬科学教育 実践臨床薬学	高倉 喜信 (兼)	教授	薬学博士		
		山下 富義	教授	博士(薬)		
	情報科学教育	米澤 淳 (兼)	准教授	博士(薬)		
		津田 真弘	講師 (特定)	博士(薬)		
		掛谷 秀昭 (兼)	教授	博士(工)		
		大石 真也 (兼)	准教授	博士(薬)		
先端創薬研究プロジェクト			杉山 直幸	准教授	博士(理)	薬学研究科本館 3F
附属薬用植物園			中山 和久	教授	薬学博士	薬学研究科
寄附講座	ナノバイオ 医薬創成科学	嶋田 裕	客員教授	博士(医)	薬学研究科本館 3F	
		清水 一治	客員教授	工学博士		
		須藤 哲央	客員教授	博士(理)		
		武井 義則	講師 (特定)	博士(薬)		

※Doctoral degree (University Pierre Marie Curie)

学部非常勤講師

<前期開講科目>

科目	講師氏名	現職	学位
有機化学5	川 端 猛 夫	京都大学化学研究所 教授	薬博
	古 田 巧	京都大学化学研究所 准教授	薬博
生物化学4 (応用生物分子科学)	二 木 史 朗	京都大学化学研究所 教授	薬博
	今 西 未 来	京都大学化学研究所 講師	薬博
感染防御学1	小 柳 義 夫	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 教授	博(医)
	生 田 宏 一	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 教授	医博
	竹 内 理	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 教授	医博
	栗 原 達 夫	京都大学化学研究所 教授	博(工)
	佐 藤 佳	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 講師	博(医)
医療薬剤学1	松 原 和 夫	京都大学医学部附属病院薬剤部 教授	医博
	中 川 貴 之	京都大学医学部附属病院薬剤部 准教授	博(薬)
地域医療薬学1	鈴 木 匡	名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授	薬博
	中 川 直 人	一般社団法人メディカプラン京都 理事長	
生理学4 (病態ゲノム学)	濱 田 新 七	大津市民病院 病理部 部長	医博
薬剤学2 (固形製剤論)	西 川 元 也	東京理科大学薬学部 教授	博(薬)
薬局方・薬事関連法規	山 本 い づ み	武庫川女子大学薬学部 准教授	博(薬)
基礎バイオインフォマティクス	奥 野 恭 史	京都大学大学院医学研究科 教授	博(薬)

<後期開講科目>

科目	講師氏名	現職	学位
生理学1	豊 島 文 子	京都大学ウイルス研究所構造形成学研究分野 教授	理博
	富 永 恵 子	大阪大学大学院生命機能研究科 准教授	薬博
生理学3 (病態生理学)	角 谷 寛	滋賀医科大学 特任教授	医博
感染防御学2	小 柳 義 夫	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 教授	博(医)
	竹 内 理	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 教授	医博
	安 永 純 一 朗	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 講師	博(医)
	佐 藤 佳	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 講師	博(医)
	松 岡 雅 雄	熊本大学大学院生命科学研究部・血液内科学 教授	医博
医療薬剤学2	松 原 和 夫	京都大学医学部附属病院薬剤部 教授	医博
	中 川 貴 之	京都大学医学部附属病院薬剤部 准教授	博(薬)
医療倫理実習	小 西 靖 彦	京都大学大学院医学研究科 教授	医博
	松 村 由 美	京都大学医学部附属病院 教授	医博
	及 川 沙 耶 佳	京都大学大学院医学研究科 特定助教	
	柴 原 真 知 子	京都大学大学院医学研究科 特定助教	修(教育)

<通年開講科目>

科目	講師氏名	現職	学位
病院実務実習	松原和夫	京都大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長	医博
	中川貴之	京都大学医学部附属病院薬剤部 准教授	博(薬)
	深津祥央	京都大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長	
	石塚良子	京都大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長	
	池見泰明	京都大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長	
	今井哲司	京都大学医学部附属病院薬剤部 講師	博(薬)
	大村友博	京都大学医学部附属病院薬剤部 助教	博(薬)
	中川俊作	京都大学医学部附属病院薬剤部 助教	博(薬)
	猪熊容子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	上杉美和	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	
	老本名津子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	岡村みや子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	尾崎淳子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	佐藤裕紀	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	
	杉本充弘	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	
	端幸代	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	
	松田裕也	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	
	森田真樹子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	
	山際岳朗	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	吉田優子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
山本崇	京都大学医学部附属病院検査部 助教	博(薬)	
医療実務事前学習	深津祥央	京都大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長	
	石塚良子	京都大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長	
	池見泰明	京都大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長	
	今井哲司	京都大学医学部附属病院薬剤部 講師	博(薬)
	大村友博	京都大学医学部附属病院薬剤部 助教	博(薬)
	岡村みや子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	尾崎淳子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	志田あゆみ	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	吉田優子	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任	
	松田裕也	京都大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	
	糀谷康子	京都大学医学部附属病院看護部管理室 看護師(移植コーディネーター)	修(看護)
	永安一樹	京都大学学際融合教育研究推進センター 特定助教	博(薬)

歴代学部長・研究科長

学部長(事務取扱)	山本俊平	(昭35.4)
学部長	富田真雄	(昭35.5~昭39.4)
	上尾庄次郎	(昭39.5~昭43.4)
	掛見喜一郎	(昭43.5~昭45.4)
	上尾庄次郎	(昭45.5~昭47.4)
	宇野豊三	(昭47.5~昭49.4)
	犬伏康夫	(昭49.5~昭51.4)
学部長・研究科長	井上博之	(学部長昭51.5~昭53.4) (研究科長昭52.2~昭53.4)
	中垣正幸	(昭53.5~昭55.4)
	高木博司	(昭55.5~昭57.4)
	矢島治明	(昭57.5~昭59.4)
	田中久	(昭59.5~昭61.4)
	瀬崎仁	(昭61.5~昭63.4)
	米田文郎	(昭63.5~平2.4)
	横山陽	(平2.5~平6.4)
	市川厚	(平6.5~平8.4)
	佐藤公道	(平8.5~平10.4)
	川寄敏祐	(平10.5~平12.4)
	中川照眞	(平12.5~平14.4)
	橋田充	(平14.5~平18.3)
	富岡清	(平18.4~平19.12)
	藤井信孝	(平20.1~平20.9)
	伊藤信行	(平20.10~平22.3)
	佐治英郎	(平22.4~平26.3)
	高倉喜信	(平26.4~平28.3)
	中山和久	(平28.4~)

平成29年度 薬学研究科教務関係委員

薬科学専攻長	教授	加藤博章
薬学専攻長	教授	高倉喜信
医薬創成情報科学専攻長	教授	岡村均
教務委員長	教授	松崎勝巳
学生委員	教授	大野浩章
”	教授	山下富義
”	准教授	申惠媛
”	講師	塚野千尋
就職委員	教授	大野浩章
図書委員長	教授	大野浩章
学生生活委員会委員	教授	大野浩章
教職教育委員会委員	教授	中山和久
教職科目連絡小委員会委員	教授	高須清誠

薬学部・薬学研究科教職員数

(平成29年1月現在)

	教授	准教授	講師	助教	事務職員	技術職員	総数
現員	14	15	4	11	9	3	56

薬学部学生数

(平成28年10月現在)

学科	入学定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
薬科学科	50	55 (2)	54 (1)	53 (1)	65 (1)	—	—	227 (5)
薬学科	30	31	29	30	31	31	36	188
計		86 (2)	83 (1)	83 (1)	96 (1)	31	36	415 (5)

() 書き数字は外国人留学生で内数。

薬学研究科学生数

修士課程

(平成28年10月現在)

専攻	入学定員	1年次	2年次	計
薬科学専攻	50	52 (5)	47 (3)	99 (8)
医薬創成情報科学専攻	14	18 (0)	12 (1)	30 (1)
計		70 (5)	59 (4)	129 (9)

() 書き数字は外国人留学生で内数。

博士後期課程

(平成28年10月現在)

専攻	入学定員	1年次	2年次	3年次	計
薬科学専攻	22	13 (3)	12 (5)	20 (3)	45 (11)
医薬創成情報科学専攻	7	6 (1)	1 (0)	5 (1)	12 (2)
計		19 (4)	13 (5)	25 (4)	57 (13)

() 書き数字は外国人留学生で内数。

博士課程

(平成28年10月現在)

専攻	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	計
薬学専攻	15	5	9	4	5	23
計		5	9	4	5	23

薬学部卒業者数

卒業年月等		人数
旧制	S16. 12 ~ S28. 3	402
新制	医学部薬学科 S28. 3 ~ S35. 3	300
	薬学部 S36. 3 ~ S28. 3	4, 240
計		4, 942

薬学研究科修士課程修了者数

学位授与年月	人数
S30. 3 ~ H28. 3	2, 627

博士学位授与者数

学位授与年月等		人数
旧制	S18. 10 ~ S37. 2 (医学博士 1 名含む)	308
課程博士	S33. 9 ~ H28. 3	886
論文博士	S36. 9 ~ H28. 3	770
計		1, 964

電話番号表

京都大学大学院薬学研究科・薬学部

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46-29

TEL (075) 753-内線番号 FAX (075) 753-4502

* 他地区からの呼出 16-内線番号

研究科長室 (4508)	事務室・総務掛 (4510) (4511)	有機微量元素分析 総合研究施設 (4596)
事務長室 (4501)	” ・教務掛 (4514) (4504)	R I室 (9556)
図書室 (4595)	薬友会事務局 (4589)	NMR室 (4518)
用務員室 (4519)		

薬科学専攻

	薬品合成化学	高須教授 (4553)	山岡助教 (4563)
薬品創製化学	薬品分子化学	竹本教授 (4528)	塚野講師 (4532) 小林助教 (4610)
	薬品資源学		伊藤准教授 (4506)
薬品機能 統御学	薬品機能解析学	松崎教授 (4521)	星野准教授 (4531) 矢野講師 (4529)
	構造生物薬学	加藤教授 (4617)	中津准教授 (4606) 山口助教 (4606)
薬品製剤設計学	製剤機能解析学	石濱教授 (4555)	杉山准教授 (4565)
生体分子薬学	生体分子認識学	竹島教授 (4572)	柿澤准教授 (4552) 市村助教(特定) (4562)
生体機能薬学	遺伝子薬学		三宅講師 (4539)
	* 生理活性制御学	井垣教授 (7684)	大澤准教授 (9269) 榎本助教 (7685)
生体情報薬学	生体情報制御学	中山教授 (4527)	申 准教授 (4537) 加藤助教 (4537)
	* 神経機能制御学	根岸教授 (4547)	加藤准教授 (7687)

<備考> * 生命科学研究科高次生命科学専攻

薬学専攻

薬品動態 医療薬学	薬品動態制御学	山下教授 (4535)	樋口講師 (4545)
	薬品作用解析学		久米准教授 (4576) 泉 助教 (4536)
	臨床薬学教育		米澤准教授 (19-3582)
病態機能 解析学	病態機能分析学		小野准教授 (4608) 渡邊助教 (4607)
	病態情報薬学	高倉教授 (4615)	高橋助教 (4616)
	生体機能解析学	金子教授 (4541)	白川准教授 (4549) 永安助教(特定) (4548)

医薬創成情報科学専攻

医薬創成	薬理ゲノミクス ・ゲノム創薬科学		平澤准教授 (4543)
情報科学	ケモゲノミクス ・薬品有機製造学	大野教授 (4571)	大石准教授 (9268)
	システムバイオロジー	岡村教授 (9552)	土居准教授 (9554) 山口助教 (9554) Fustin講師(特定) (9554)
	システムセラピー (制御分子学)	掛谷教授 (4524)	服部准教授 (9267) 西村助教 (4534)

寄附講座

ナノバイオ医薬創成科学	嶋田教授(客) (9558) 武井講師(特定) (9559)
	須藤教授(客) (4586)
	清水教授(客) (9556)

統合薬学教育開発センター	山下教授 (9560) 津田講師(特定) (4526)
--------------	-----------------------------

先端創薬研究プロジェクト	杉山准教授 (4565)
--------------	--------------

京都大学化学研究所

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

(0774) 38-内線番号 * 他地区からの呼出 17-内線番号

物質創製化学研究系(精密有機合成化学)	川端教授 (3190)	古田准教授 (3191)	上田助教 (3193)
生体機能化学研究系(生体機能設計化学)	二木教授 (3210)	今西講師 (3212)	河野助教 (3211)
バイオインフォマティクスセンター(統合ゲノミクス)	緒方教授 (3274)		Romain Blanc-Mathieu助教 (3296)
” (分子設計情報)	馬見塚教授 (3023)		CanhHao Nguyen助教 (3313)

京都大学ウイルス研究所

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

(075) 751-内線番号 * 他地区からの呼出 19-内線番号

ヒトレトロウイルス学	松岡客員教授 (4048)	安永講師 (3986)	志村助教 (3986)
分子ウイルス学	小柳教授 (4811)	佐藤講師 (4813)	
感染防御学	竹内教授 (4024)	三野助教 (4042)	植畑助教(特定) (4042)
免疫制御学	生田教授 (4012)	原助教 (4022)	崔助教 (4022)

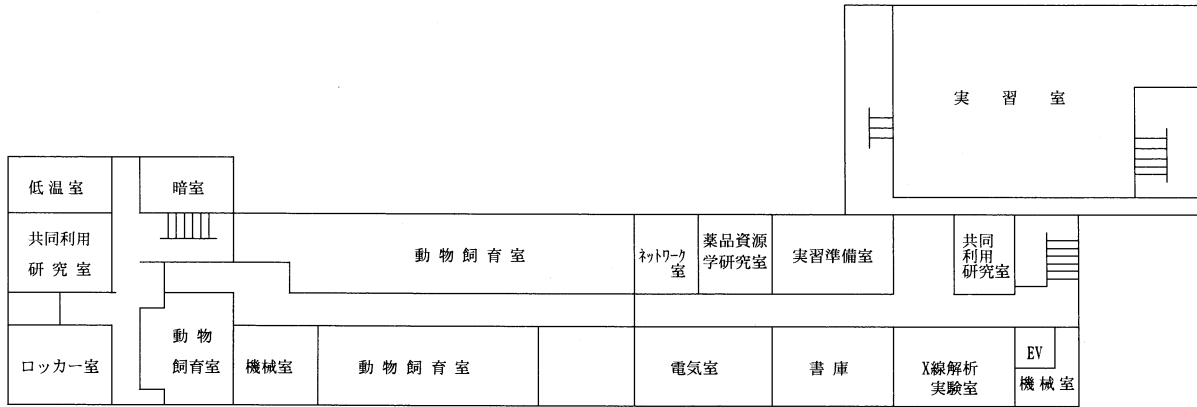
京都大学医学部附属病院

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54

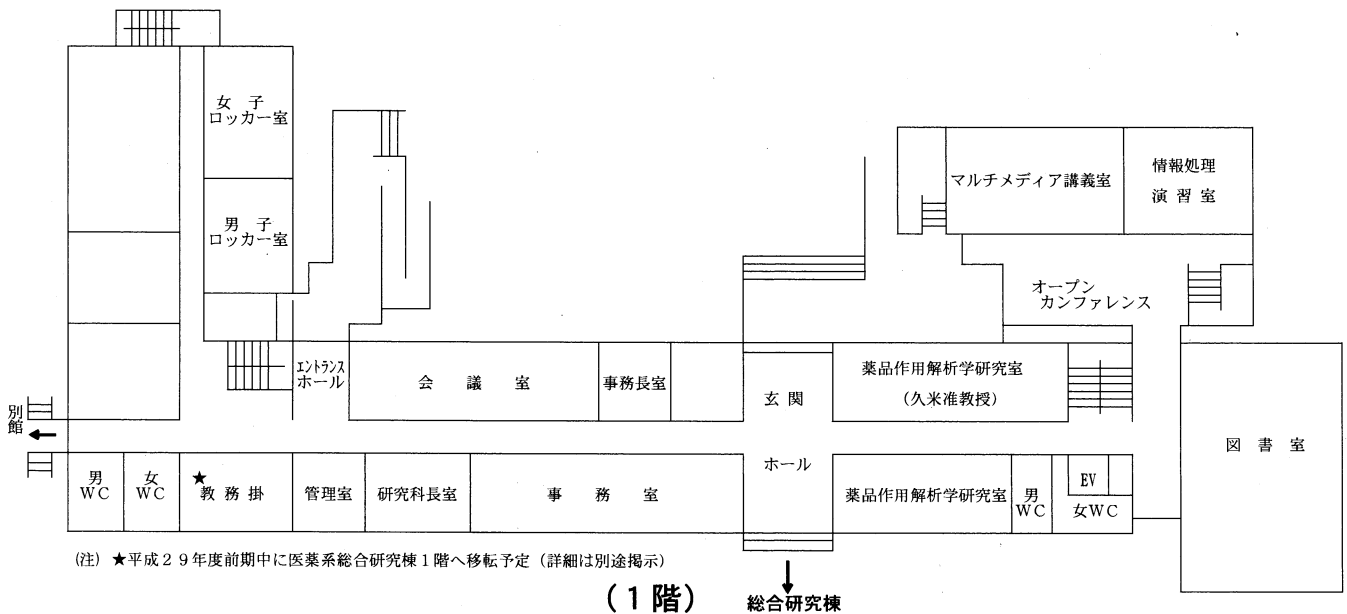
(075) 751-内線番号 * 他地区からの呼出 19-内線番号

	松原教授 (3577)	中川准教授 (4560)	今井講師 (3588)
薬剤部(医療薬剤学・臨床薬学教育)			大村助教 (3588)
			中川助教(特定) (3586)

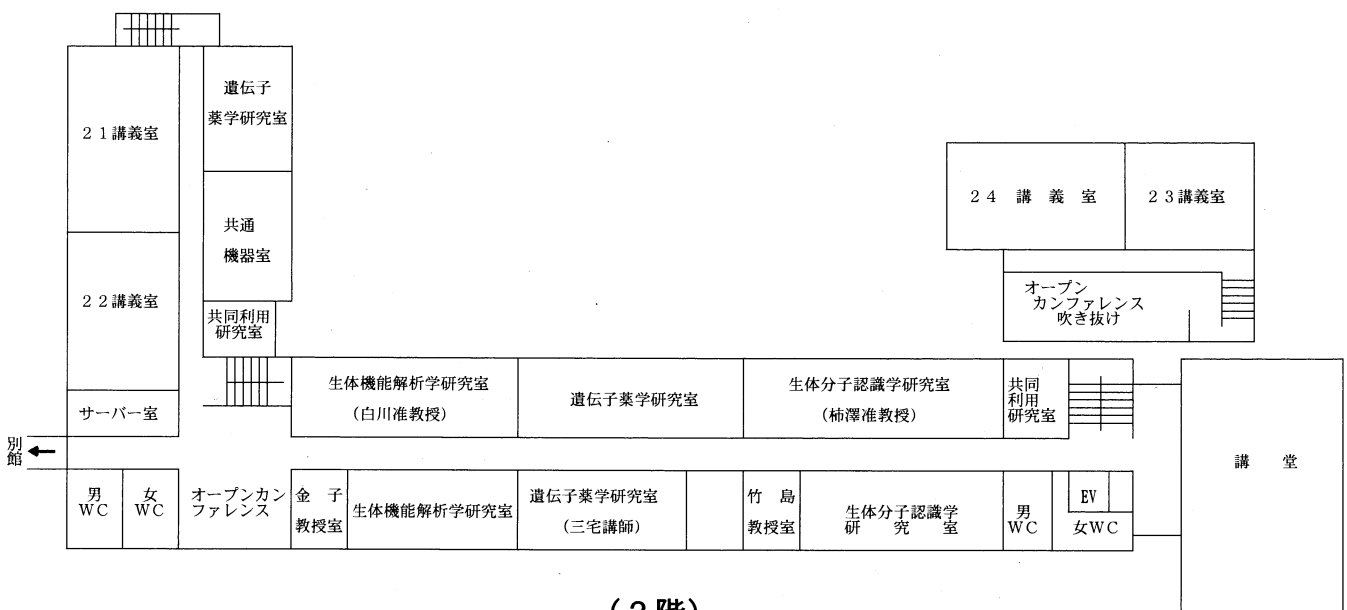
薬学研究科 本館建物内配置図



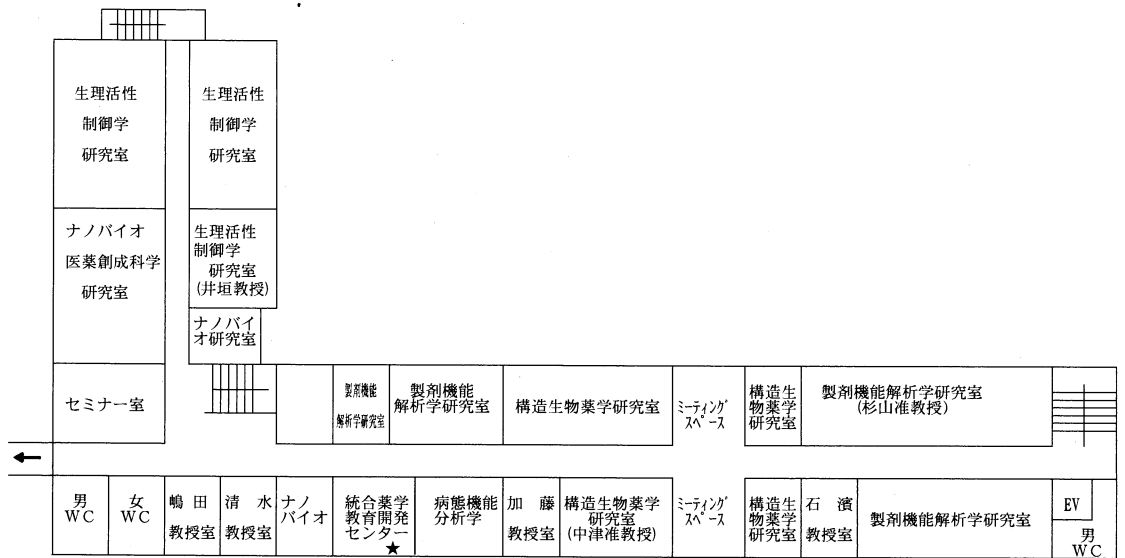
(地階)



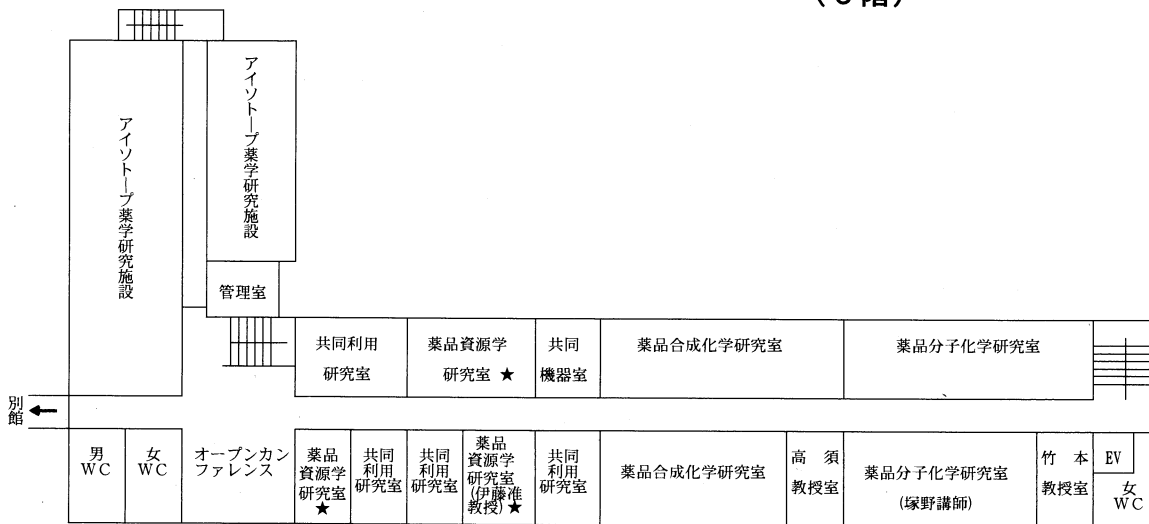
(1階)



(2階)

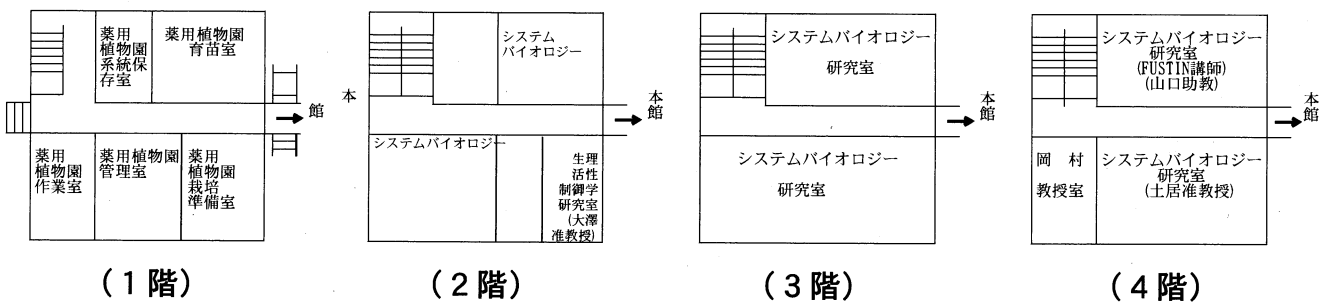


(3階)



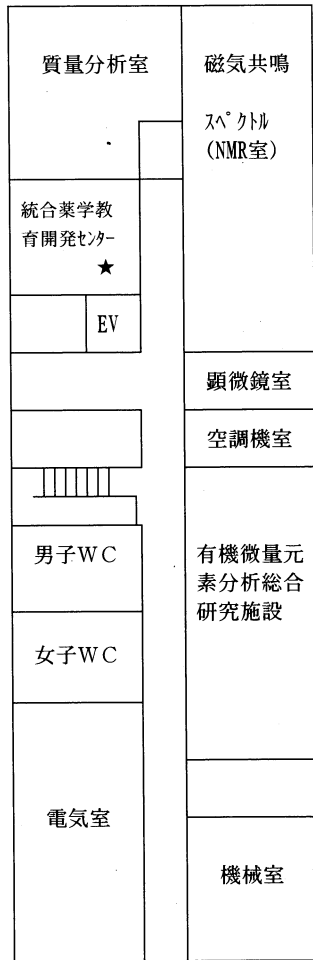
(4階)

別館建物内配置図

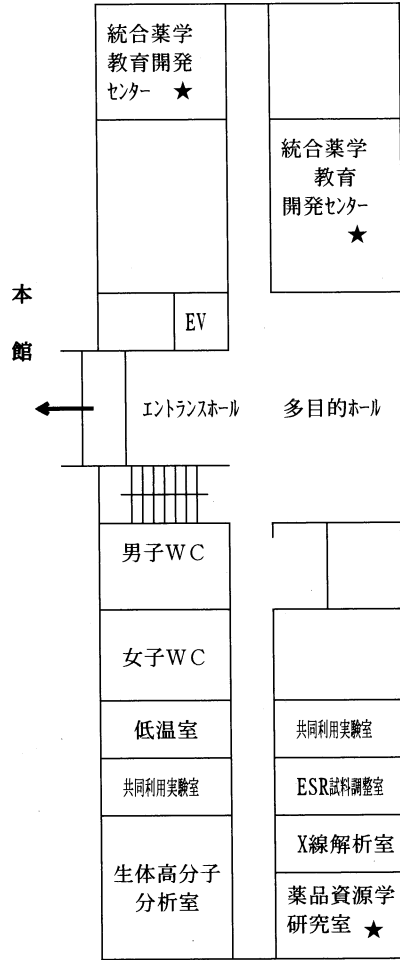


(注) ★平成29年度前期中に医薬系総合研究棟2階へ移転予定 (詳細は別途掲示)

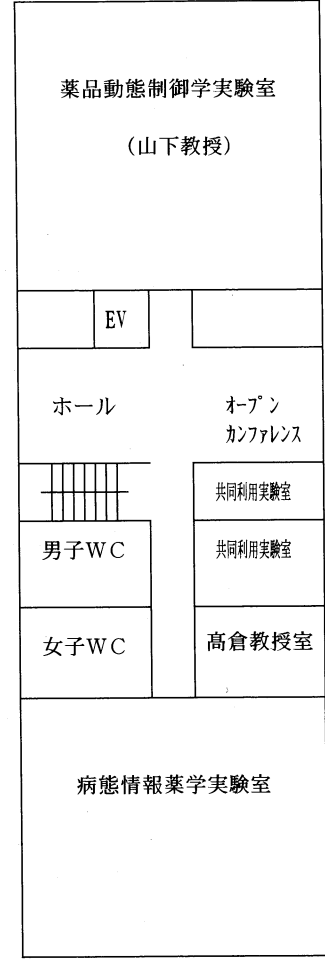
薬学研究科 総合研究棟(新館) 建物内配置図



(地階)

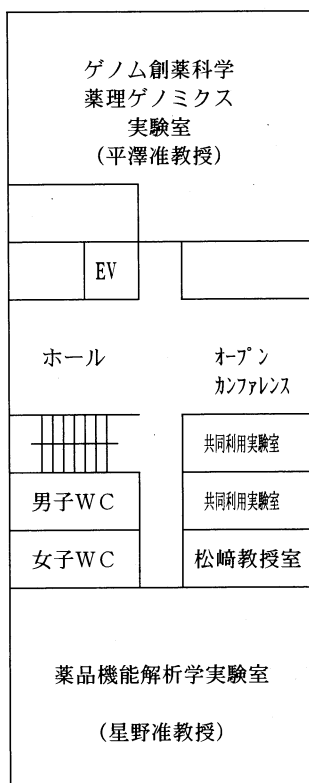


(1階)

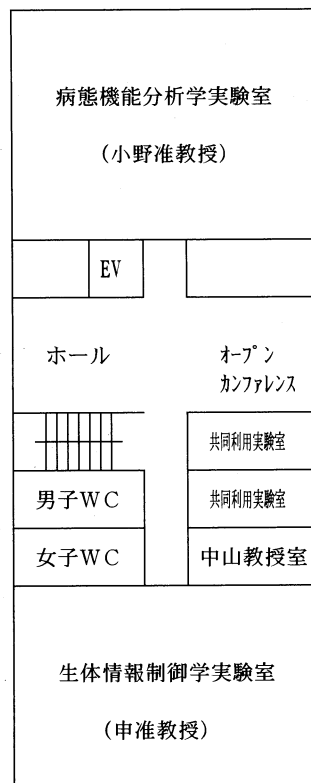


(2階)

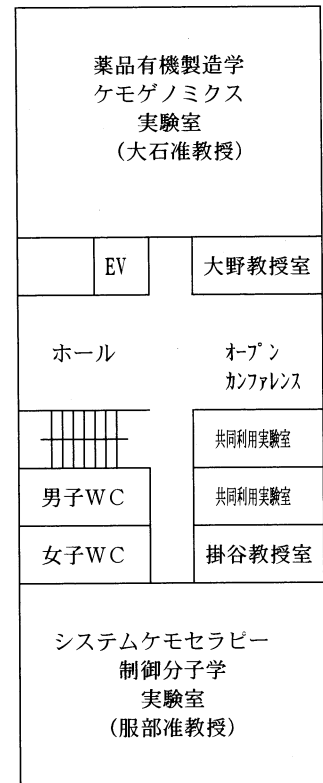
(注) ★平成29年度前期中に医薬系総合研究棟1階へ移転予定 (詳細は別途掲示)



(3階)

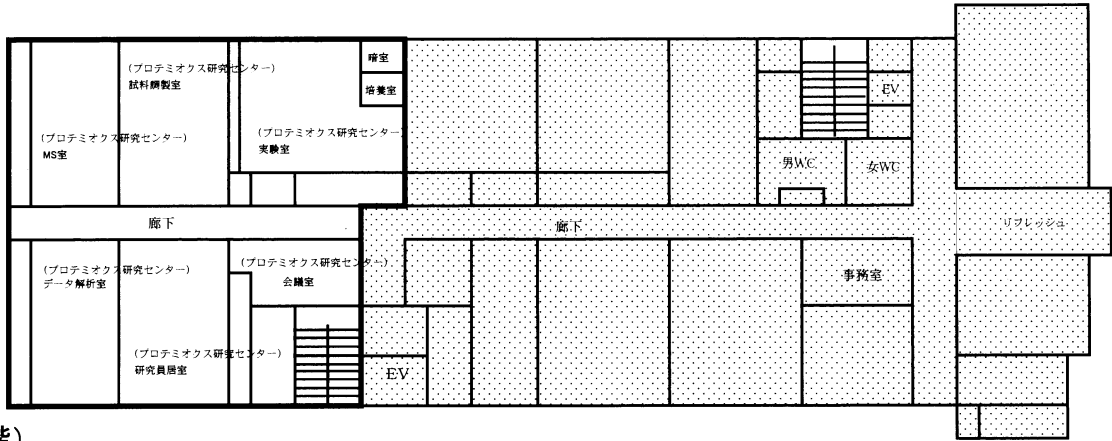


(4階)

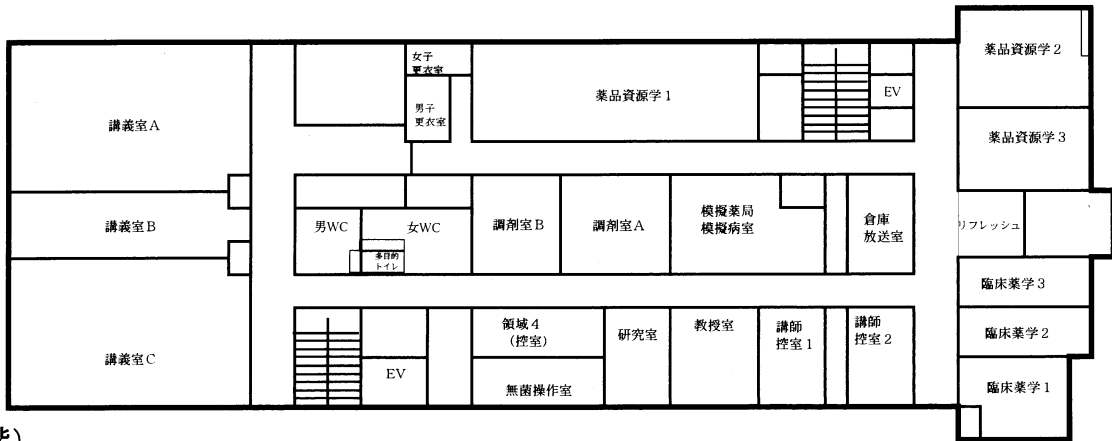


(5階)

医薬系総合研究棟建物内配置図



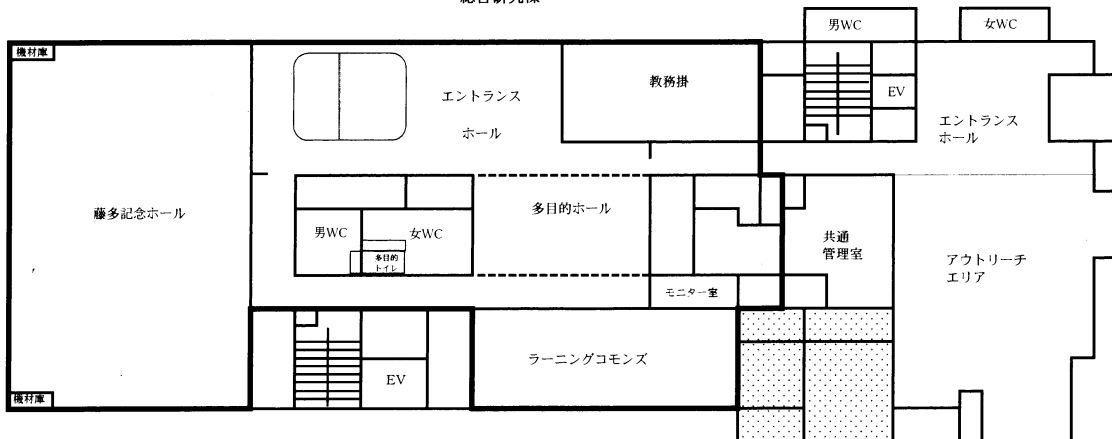
(3 階)



(2 階)



総合研究棟



(1 階)

●●●●●: 医学 □: 薬学

京都大学構内図

吉田キャンパス

